

AX4G Pro

オンラインマニュアル

DOC. NO.: AX4GP-OL-J0206B

マニュアル目次

AX4G Pro	1
マニュアル目次.....	2
注意事項.....	9
インストールの前に.....	10
製品概要.....	11
製品機能の特長.....	12
クイックインストールの手順.....	17
マザーボード全体図.....	18
ブロックダイアグラム	19
ハードウェアのインストール	20
“製造元アップグレードオプション”及び“ユーザーアップグレードオプション”について.....	21
JP14 による CMOS データのクリア	22
CPU のインストール.....	23
CPU ファンのインストール.....	25
CPU ジャンパーレス設計.....	26
AOpen “ウォッチドッグタイマー”.....	27
CPU コア電圧のフルレンジ調整機能.....	28

CPU 及びケースファンコネクタ(ハードウェアモニタ機能付き).....	31
JP28 によるキーボード/マウスウェイクアップ機能の設定ジャンパー.....	32
DIMM ソケット.....	33
フロントパネルコネクタ.....	35
ATX 電源コネクタ.....	36
AC 電源自動回復機能.....	37
IDE 及びフロッピーコネクタの接続.....	38
IrDA コネクタ.....	40
 S/PDIF (Sony/Philips デジタルインタフェース)コネクタ.....	41
 高音質の 5.1 チャンネルオーディオ効果.....	42
AGP スロット.....	43
WOM (ゼロボルトウェイクオンモデム) コネクタ.....	44
WOL (ウェイクオンLAN) 機能.....	47
CNR(コミュニケーション及びネットワークングライザー) 拡張スロット.....	49
PC99 カラーコード準拠バックパネル.....	50
オンボードの 10/100 Mbps LAN 機能.....	51
JP13 による LAN 機能の設定ジャンパー.....	52
 6 個の USB 2.0 コネクタをサポート.....	53
ケース開放センサーコネクタ.....	54

CD オーディオコネクタ	55
AUX 入カコネクタ	56
フロントオーディオコネクタ	57
ダイハード BIOS	58
Dr. LED コネクタ	60
Dr. ボイス	62
バッテリー不要及び耐久設計	63
過電流保護	64
ハードウェアモニタ機能	65
 AOCconfig ユーティリティ	66
リセット可能なヒューズ	68
3300μF 低 ESR コンデンサー	69
レイアウト (周波数分離ウォール)	70
 大型アルミニウム製ヒートシンク	71
 Open JukeBox プレイヤー	72
 Vivid BIOS テクノロジー	76
ドライバ及びユーティリティ	77
Bonus CD ディスクからのオートランメニュー	78
Intel®チップセットソフトウェアインストールユーティリティのインストール	79

Intel Brookdale-G VGA ドライバのインストール	80
Intel IAA ドライバのインストール.....	81
オンボードサウンドドライバのインストール	82
LAN ドライバーのインストール.....	83
USB2.0 ドライバのインストール.....	84
ハードウェアモニタユーティリティのインストール.....	86
ACPI ハードディスクサスペンド.....	87
ACPI サスペンドトゥーRAM (STR)	91

AWARD BIOS..... 93

BIOS 機能の説明.....	94
Award™ BIOS セットアッププログラムの使用方法.....	95
BIOS セットアップの起動方法.....	97
 Windows 環境における BIOS のアップグレード.....	98

オーバークロック 100

VGA カード及びハードディスク	101
------------------------	-----

用語解説..... 102

AC97 サウンドコーデック	102
ACPI (アドバンスド コンフィギュレーション&パワー インタフェース)	102
AGP (アクセラレーテッドグラフィックポート).....	102

AMR (オーディオ/モデムライザー)	103
AOpen Bonus Pack CD	103
APM (アドバンスドパワーマネジメント)	103
ATA (AT アタッチメント)	103
ATA/66	104
ATA/100	104
ATA/133	104
BIOS (基本入出カシステム)	104
Bus Master IDE (DMA モード)	105
CNR (コミュニケーション及びネットワーキングライザー)	105
CODEC (符号化および復号化)	105
DDR (ダブルデータレーテッド) SDRAM	105
DIMM (デュアルインライン メモリモジュール)	106
DMA (ダイレクトメモリアクセス)	106
ECC (エラーチェックおよび訂正)	106
EDO (拡張データ出力)メモリ	106
EEPROM (電子式消去可能プログラマブルROM)	107
EPROM (消去可能プログラマブルROM)	107
EV6 バス	107

FCC DoC (Declaration of Conformity)	107
FC-PGA (フリップチップ-ピングリッド配列).....	108
フラッシュ ROM.....	108
FSB (フロントサイドバス)クロック.....	108
I ² C Bus.....	108
IEEE 1394.....	109
パリティビット	109
PBSRAM (パイプラインドバースト SRAM).....	109
PC-100 DIMM	110
PC-133 DIMM	110
PC-1600、PC-2100 及びPC-2700 DDR DRAM	110
PCI (ペリフェラルコンポーネントインタフェース)バス	110
PDF フォーマット.....	111
PnP(プラグアンドプレイ).....	111
POST (電源投入時の自己診断).....	111
RDRAM (Rambus DRAM)	111
RIMM (Rambus インラインメモリモジュール)	112
SDRAM (同期 DRAM).....	112
シャドウ E ² PROM.....	112

SIMM (シングルインラインメモリモジュール)	112
SMBus (システムマネジメントバス).....	113
SPD (既存シリアル検出).....	113
Ultra DMA	113
USB (ユニバーサルシリアルバス).....	114
VCM(バーチャルチャンネルメモリ).....	114
ZIP ファイル	114
トラブルシューティング	115
テクニカルサポート	119
製品の登録	122
弊社へのご連絡	123

注意事項



Adobe、Adobe のロゴ、Acrobat は Adobe Systems Inc.の商標です。

AMD、AMD のロゴ、Athlon および Duron は Advanced Micro Devices, Inc.の商標です。

Intel、Intel のロゴ、Intel Celeron, PentiumII, PentiumIII, Pentium 4 は Intel Corporation.の商標です。

Microsoft、Windows、Windows のロゴは、米国または他国の Microsoft Corporation の登録商標および商標です。

このマニュアル中の製品およびブランド名は全て、識別を目的とするために使用されており、各社の登録商標です。

このマニュアル中の製品仕様および情報は事前の通知なしに変更されることがあります。この出版物の改訂、必要な変更をする権限は AOpen にあります。製品およびソフトウェアを含めた、このマニュアルでの誤りや不正確な記述については AOpen は責任を負いかねます。

この出版物は著作権法により保護されています。全権留保。

AOpen Corp.の書面による許諾がない限り、この文書の一部をいかなる形式や方法でも、データベースや記憶装置への記憶などでも複製はできません。

Copyright(c) 1996-2002, AOpen Inc. All Rights Reserved.

インストールの前に



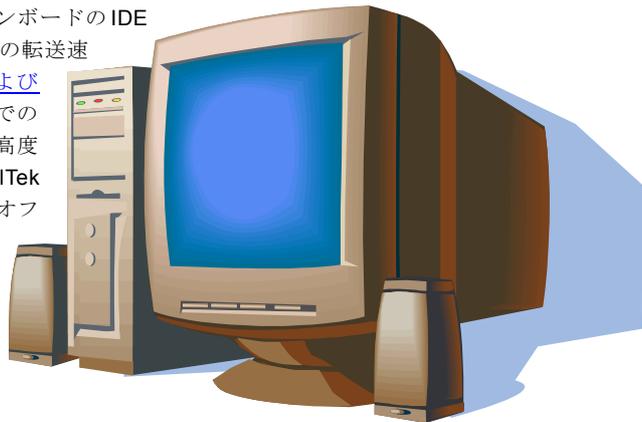
このオンラインマニュアルでは製品のインストール方法が紹介されています。有用な情報は後半の章に記載されています。将来のアップグレードやシステム設定変更に備え、このマニュアルは大切に保管しておいてください。このオンラインマニュアルは [PDF フォーマット](#) で記述されていますので、オンライン表示には **Adobe Acrobat Reader 4.0** を使用するようお勧めします。このソフトは [Bonus CD ディスク](#) にも収録されていますし、[Adobe ウェブサイト](#) から無料ダウンロードもできます。

当オンラインマニュアルは画面上で表示するよう最適化されていますが、印刷出力も可能です。この場合、紙サイズは **A4** を指定し、1 枚に **2** ページを印刷するようにしてください。この設定は **ファイル > ページ設定** を選び、そしてプリンタドライバの指示に従ってください。

皆様の地球環境保護へのご協力に感謝いたします。

製品概要

この度は AOpen AX4G Pro マザーボードをお買い上げいただき、ありがとうございます。AX4G Pro は [Intel® 845G \(Brookdale\) チップセット](#) 採用、ATX 規格の Intel® Socket 478 マザーボード(以下、M/B)です。高性能チップセット内蔵のマザーボードである AX4G Pro は Intel® Socket 478 の Pentium® 4 プロセッサ(Brookdale)、並びに 400/533 MHz [FSB \(フロントサイドバス\)](#) クロックをサポートしています。AGP 機能面では、1 本の DVO / TV-OUT スロットがあり、デジタルビデオ出力カードやテレビ出力カードをサポートする上に、1.5V AGP カードにも対応し、4x モードの SBA/データ転送、2x/4x モードのファーストライト機能及び最大 1056MB/秒までのパイプライン分割トランザクションロングバースト転送を実現します。ユーザーの異なる要求に応じ、Intel 845G チップセットのメモリアインターフェースは DDR333/266 SDRAM をサポートし、64, 128, 256 及び 512Mb DDR SDRAM DIMM モジュールはマザーボードに最大 2 GB まで実装可能です。オンボードの IDE コントローラは、[Ultra DMA 33/66/100](#) モードおよび最大 100MB/s の転送速度をサポートします。さらに、オプションの [コミュニケーションおよびネットワークライザー\(CNR\)](#) カードを利用する事で、単一の基板上でのオーディオ、モデム及び(または) LAN の設定が自在に行えます。高度に統合化されたプラットフォーム LAN 接続デバイスである RealTek 8100BL LAN コントローラーをオンボードで搭載することにより、オフィス及び家庭用 10/100M bps イーサネットを提供します。また、オンボードの [AC97 CODEC](#) チップセットにより、AX4G Pro マザーボードで高性能かつすばらしいサラウンドステレオサウンドをお楽しみいただけます。それでは AX4G Pro マザーボードの全機能をご堪能ください。



製品機能の特長

CPU

Intel® Socket 478 規格の Pentium® 4 プロセッサ(Brookdale) 1.4GHz~2.4GHz+、並びに Socket 478 テクノロジーに設計された 400/533MHz [FSB \(フロントサイドバス\)](#) クロックをサポートしています。

チップセット

Intel® 845G (Brookdale : ブロックディール)チップセットにより、Intel は Intel® 845G チップセットにフル機能で画期的かつ信頼性の高いグラフィックスソリューションを加えました。Intel® 845G チップセットは、スケーラビリティの高い設計により Intel® Pentium® 4 プロセッサ採用のプラットフォームに最先端の理想的な AGP グラフィックスソリューションを提供します。また Intel® 845G チップセットに高度に統合化された I/O コントローラハブ (ICH4)により、6 個の USB ポートをサポートする USB コントローラが備わっています。AC97 オーディオ 5.1 チャンネルおよびソフトウェアオーディオ/モデムテクノロジーにより、845G チップセットは先進の新たな PC 規格の理想的なソリューションを提供します。

拡張スロット

6本の32ビット/33MHz PCI スロット、1本のCNR スロット及び1本のAGP 4X スロットが含まれます。[PCI](#) ローカルバスのスループットは最大132MB/sです。AX4G Proに装備されている[CNR\(コミュニケーション及びネットワークワーキングライザー\)](#)スロットにより、オーディオ/モデムカード用のCNR インタフェースがサポートされています。[アクセラレーテッドグラフィックスポート\(AGP\)](#)の仕様ではビデオ表示用のより高速な新機能が含まれています。AGP 機能面では、1本のDVO / TV-OUT スロットがあり、デジタルビデオ出力カードやテレビ出力カードをサポートする上に、1.5V AGP カードにも対応し、4x モードのSBA/データ転送、2x/4x モードのファーストライト機能及び最大1056MB/秒までのパイプライン分割トランザクションロングバースト転送を実現します。AD および SBA 信号用には、AX4G Pro は 4X モードをサポートしています。搭載された6本のPCI スロットは全てバスアービトレーション及びデコード機能を有するマスタ PCI スロットであり、あらゆる統合された機能及びLPC バスを提供します。しかしながら、オンボードのLAN 機能をオンにしたり、CNR LAN カードを挿入したりする場合には、6番目のPCI スロットはスレーブ PCI スロットになります。

メモリ

3本の184ピンDDR [SDRAM](#) DIMM ソケットにより、最大2GBの[DDR333/266](#) 準拠DDR SDRAM (同期ダイナミックランダムアクセスメモリ)をサポートしています(CPU FSB 533MHzのみがDDR333をサポートすることをご注意ください)。各ソケットには64, 128, 256, 512MbのDDR SDRAM DIMM モジュールが装着できます。

Ultra DMA 33/66/100 Bus Master IDE

オンボードのPCI Bus Master IDE コントローラにはコネクタ2個が接続され、2チャンネルで4台のIDE装置が使用可能です。サポートされるのは[Ultra DMA](#) 33/66/100、PIO モード3および4さらにBus Master IDE DMA モード5、拡張IDE機器です。

オンボードの AC'97 サウンド

AX4G Pro マザーボードは [AC97](#) サウンドチップを採用しています。オンボードオーディオにはサウンド録音・再生システムが完備されています。

1MHz 単位でのクロック調節機能

“1MHz 単位でのクロック調節”機能が BIOS でサポートされています。このユニークな機能により CPU [FSB](#) クロックを 100~248MHz の範囲で 1MHz 単位でのクロック調節が可能である上に、システム機能を最大限引き出す事ができます。

ウォッチドッグタイマー

AOpen “ウォッチドッグタイマー”機能により、システムのオーバークロックに失敗しても 4.8 秒でシステム設定は自動リセットされます。

外部コントローラ付きのダイハード BIOS

[ダイハード BIOS](#) テクノロジーはソフトウェアや BIOS コードを含まない、ハードウェア上の装置で、ウィルス防止効果 100% です。

S/PDIF コネクタ

S/PDIF (Sony/Philips デジタルインタフェース)は最新のオーディオ転送ファイル形式で、アナログに取って代わる高音質のデジタルオーディオを光ファイバー経由で楽しめます。

6 個の USB コネクタ(2.0)

マウス、キーボード、モデム、スキャナー等の USB インタフェースデバイス用に、3 個のポート計 6 個の [USB](#) コネクタが用意されています。従来の USB 1.0/1.1 規格では最大 12Mbps の転送となりますが、USB 2.0 規格の転送速度はその 40 倍であり、最高 480Mbps の転送レートを実現します。

Dr. LED (アップグレードオプション)

[Dr. LED](#) とは、AX4G Pro マザーボード上の 8 個の LED で、遭遇した問題の性質を容易に把握できます。

Dr. ボイス

[Dr. Voice](#) は 4 ヶ国語（英語、中国語、日本語、ドイツ語）により、生じた問題の性質を音声で知らせる機能です。特別にユーザーの便宜を図り、面倒なジャンパー設定を省くように日本向け製品に対して、Dr.ボイス言語バージョンの初期値を前もって日本語に指定しておきました。そうすることにより、マザーボードが正真正銘のジャンパーレス設計となります。

パワーマネジメント/プラグアンドプレイ

サポートするパワーマネジメント機能は、米国環境保護局（EPA）の Energy Star 計画の省電力規格をクリアしています。さらに [プラグアンドプレイ](#) 機能により、設定時のトラブルを減少させ、システムがよりユーザーフレンドリーになっています。

ハードウェアモニタ機能

CPU や筐体ファンの状態、CPU 温度や電圧の監視や警告がオンボードのハードウェアモニタモジュールから使用可能です。

拡張 ACPI

Windows® 98/ME/2000 シリーズ互換のACPI規格に完全準拠し、ソフト・オフ、STR (サスペンドトゥーRAM, S3), STD (ディスクサスペンド, S4)機能をサポートしています。

スーパーマルチ I/O

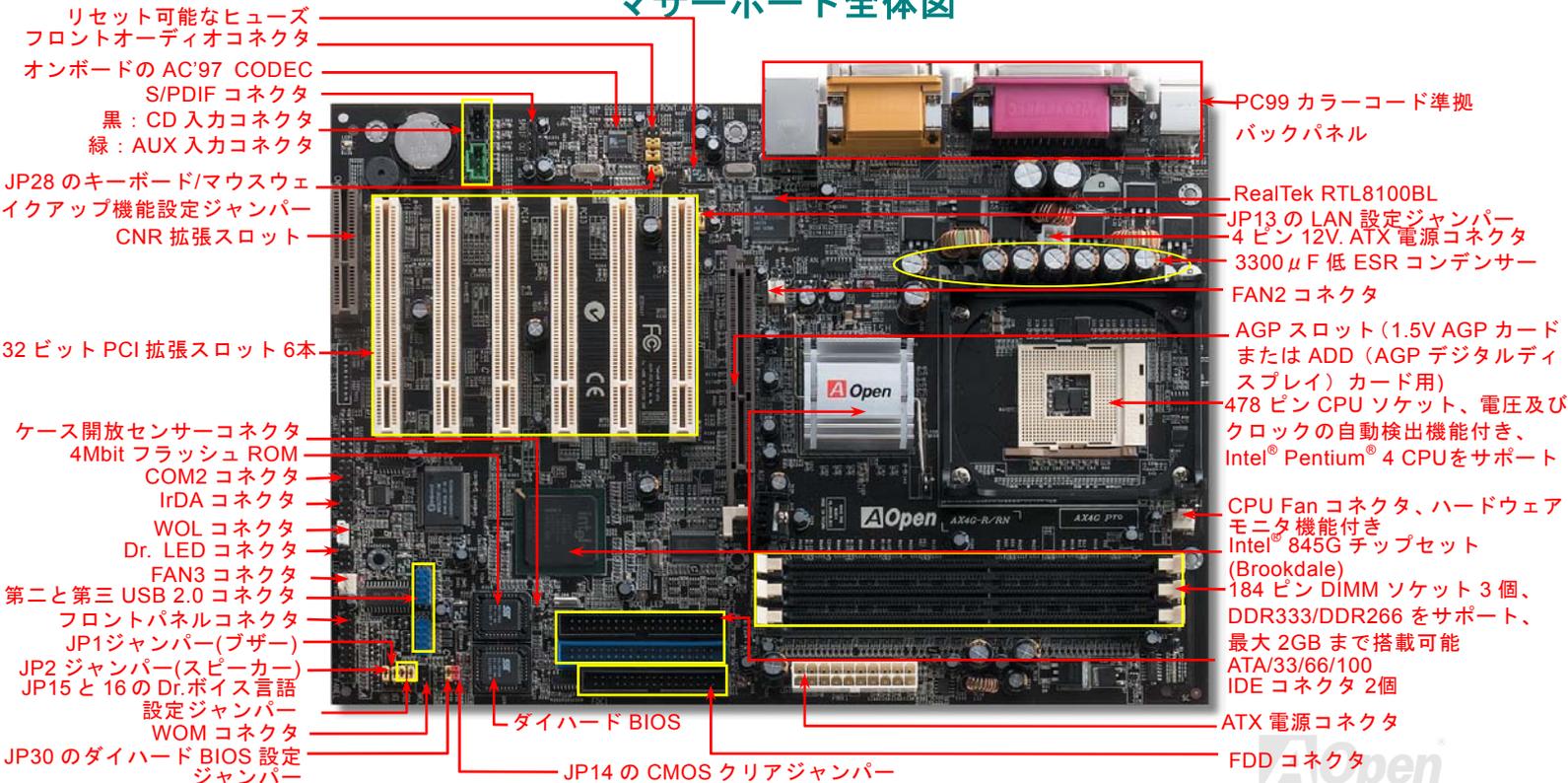
UART 互換高速シリアルポート 2 個、EPP および ECP 互換の平行ポート 1 個が装備されています。UART は COM1 から赤外線モジュールに接続してワイヤレス転送にも使用可能です。

クイックインストールの手順

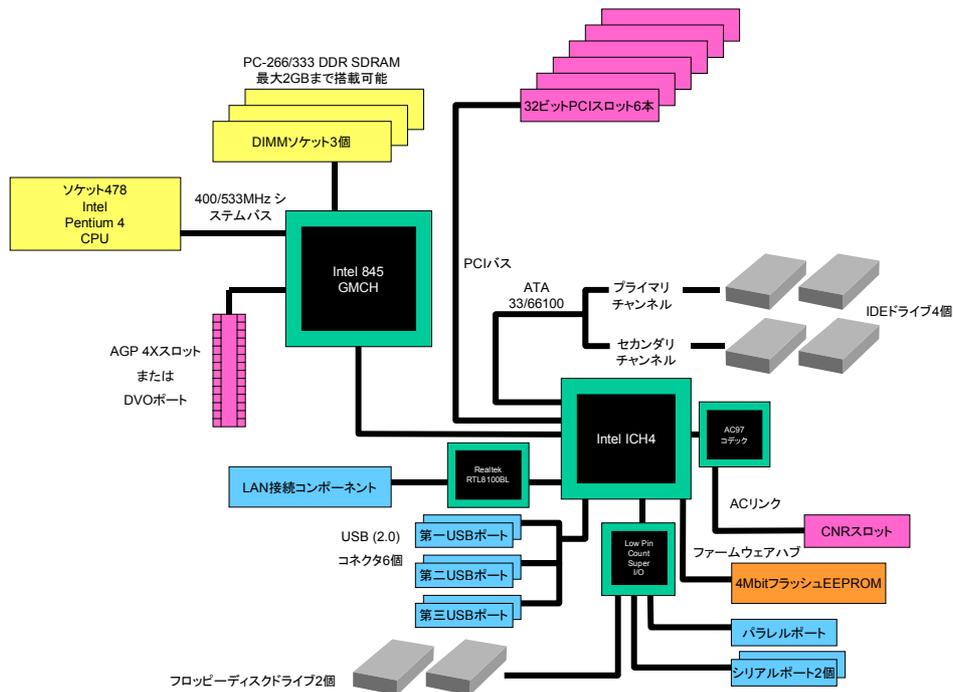
このページにはシステムをインストールする簡単な手順が説明されています。以下の手順に従ってください。

1. [CPUおよびファンのインストール](#)
2. [システムメモリ \(DIMM\)のインストール](#)
3. [フロントパネルケーブルの接続](#)
4. [IDE およびフロッピーケーブルの接続](#)
5. [ATX 電源ケーブルの接続](#)
6. [バックパネルケーブルの接続](#)
7. [電源の投入および BIOS 設定の初期値のロード](#)
8. [CPU クロックの設定](#)
9. 再起動
10. 基本ソフト (Windows 98 など)のインストール
11. [ドライバ及びユーティリティのインストール](#)

マザーボード全体図



ブロックダイアグラム



ハードウェアのインストール

この章ではマザーボードのジャンパー、コネクタ、ハードウェアデバイスについて説明されています。

 **注意:** 静電放電 (ESD) の発生がプロセッサ、ハードディスク、拡張カード及び他の周辺デバイスに損害を与える可能性がありますので、各デバイスのインストール作業を行う前に、常に、下記の注意事項に気を付けるようにして下さい。

1. 各コンポーネントは、そのインストール直前まで静電保護用のパッケージから取り出さないで下さい。
2. コンポーネントを扱う際には、あらかじめアース用のリスト・ストラップを手首にはめて、コードの先はパソコンケースの金属部分に固定して下さい。リスト・ストラップがない場合は、静電放電を防ぐ必要のある作業中は常に、身体がパソコンケースに接触しているようにして下さい。

“製造元アップグレードオプション”及び“ユーザーアップグレードオプション”について...

このオンラインマニュアルをご覧になってコンピュータシステムを組み上げる際、若干の機能は“製造元アップグレードオプション”、または“ユーザーアップグレードオプション”となっている事に気づかれるでしょう。AOpen 製マザーボードには多くのすばらしく強力な機能が備わっているにもかかわらず、場合によってはユーザーがそれらを必要としないケースもあります。従いまして、幾つかの主要機能はユーザーがオプションとして選択できるようにしています。その中には、ユーザー独自でアップグレードできるオプション機能を“ユーザーアップグレードオプション”と称し、ユーザー独自でアップグレードできないものを“製造元アップグレードオプション”と称します。必要な場合には、地元の販売店またはリセラーから“ユーザーアップグレードオプション”コンポーネントが購入できる上に、AOpen 公式ウェブサイト <http://www.aopen.co.jp/> から詳細情報も入手可能です。



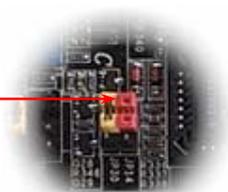
JP14 による CMOS データのクリア

CMOS をクリアする事でシステムの初期値設定に戻ることができます。CMOS のクリア手順は下記の通りです。

1. システムの電源を切り、AC パワーコードを抜きます。
2. コネクタ PWR2 から ATX 電源ケーブルを取り外します。
3. JP14 の位置を確認し、2-3 番ピンを数秒間ショートさせます。
4. 1-2 番ピンをショートして JP14 を通常の設定に戻します。
5. ATX 電源ケーブルをコネクタ PWR2 に差し戻します。



1 番ピン



正常動作の場合
(初期値設定)



CMOS クリア
の場合

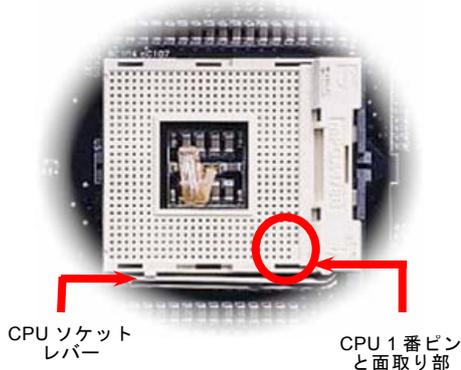
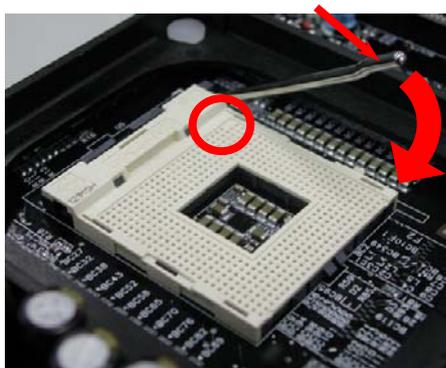
ヒント: CMOS クリアはどんな時に必要?

1. オーバークロック時の起動失敗...
2. パスワードを忘れた...
3. トラブルシューティング...

CPU のインストール

このマザーボードは Intel® Pentium 4 ソケット 478 仕様 CPU をサポートしています。CPU をソケットに差すときは CPU の方向に注意してください。

1. CPU ソケットレバーを 90 度引き起こします。
2. ソケットの 1 番ピンの位置および CPU 上部の黒い点や面取り部を確認します。1 番ピンおよび面取り部を合わせます。この方向で CPU をソケットに差します。



CPU ソケット
レバー

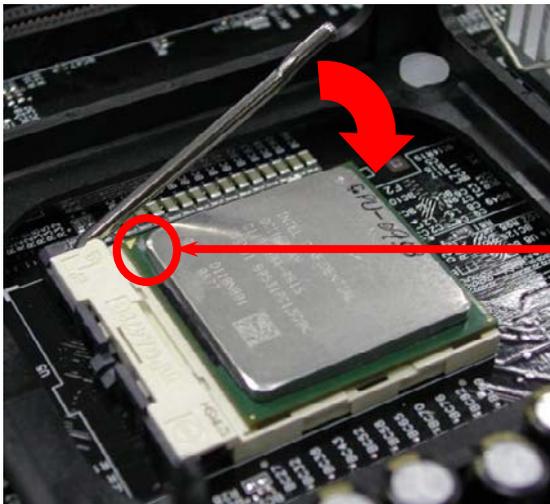
CPU 1 番ピン
と面取り部



CPU 面取り部

注意: これらの図は参考用のみですので、当マザーボードと確実に一致するわけではありません。

3. CPU ソケットレバーを水平に戻しますと、CPU のインストールは完了です。



CPU 面取り部

注意: CPU ソケットの1番ピンとCPUの面取り部を合わせてインストールしないと、CPU に損傷を与える可能性があります。

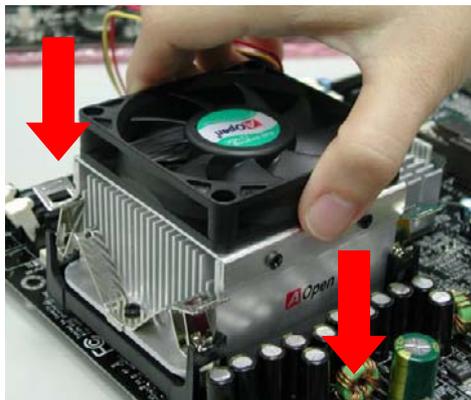
注意: このソケットはインテルが開発した最新 CPU パッケージである Micro-FC-PGA2 をサポートしていますので、他のパッケージ CPU を挿入しないようご注意ください。

注意: この図は参考用のみですので、当マザーボードと確実に一致するわけではありません。

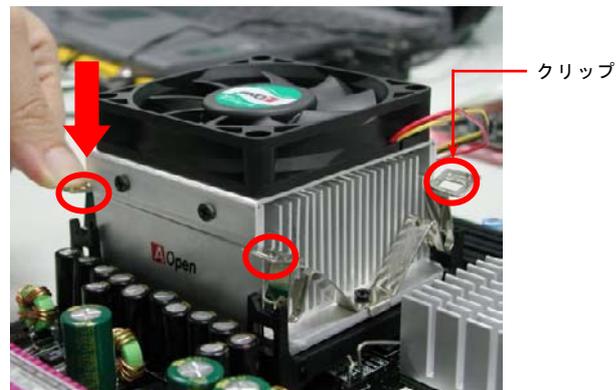
CPU ファンのインストール

このマザーボードは出荷時に CPU ソケットにリテンションモジュールが付属されています。よりよい放熱効果を果たすため、下図のように、リテンションモジュールに AOpen が特別に設計したヒートシンクを装着することをお勧めいたします。下図のように CPU ファンを正しくインストールしてください。

1. クリップが四つの角に正しく合わせるよう、ゆっくりと CPU ファンをリテンションモジュールに装着します。

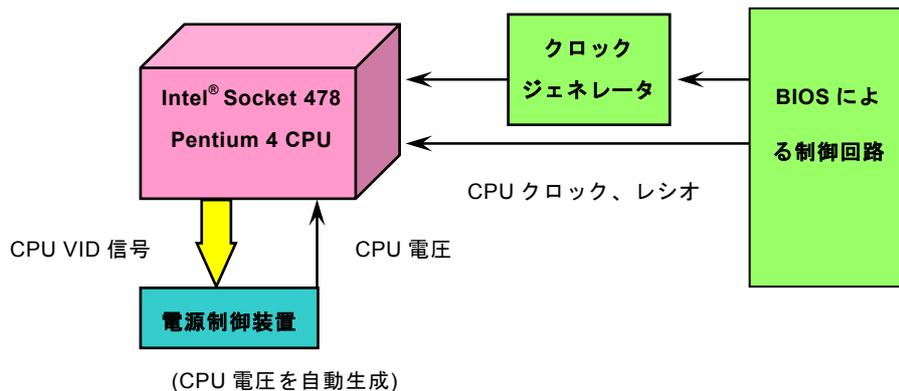


2. 四つのクリップを一つずつ押して CPU ファンを装着します。



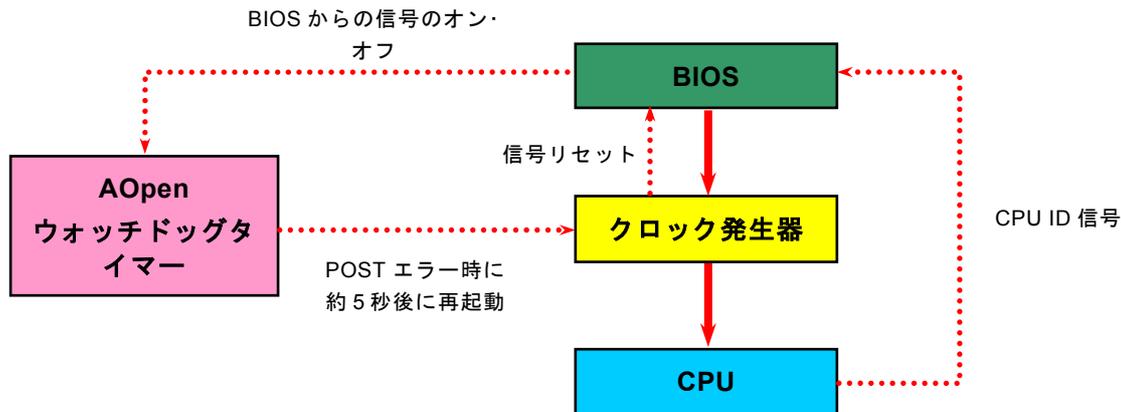
CPU ジャンパーレス設計

CPU VID 信号および [SMBus](#) クロックジェネレーターにより、CPU 電圧の自動検出が可能となり、ユーザーは [BIOS セットアップ](#) を通して CPU クロックを設定できますから、ジャンパーやスイッチ類は不要となります。これで Pentium 中心のジャンパーレス設計に伴う不便は解消されます。CPU 電圧検出エラーの心配もありません。



AOpen “ウォッチドッグタイマー”

このマザーボードには、オーバークロック用に AOpen によるユニークで便利な機能が備わっています。システム電源を入れると、BIOS は先回のシステムの [POST](#) 状況をチェックします。問題なければ、BIOS は即座に“ウォッチドッグタイマー”機能を起動し、CPU [FSB](#) クロックを BIOS に保存されているユーザー設定値に設定します。システムが BIOS POST の段階で起動失敗した場合は、“ウォッチドッグタイマー”はシステムをリセットし、5 秒後に再起動します。この時 BIOS は CPU のデフォルトクロックを検出し、再度 POST を行います。この特別な機能により、システムハングアップ時でもケースカバーを開けて CMOS クリアのジャンパー操作を行わずに、より高性能なシステムへのオーバークロックが可能となっています。



CPU コア電圧のフルレンジ調整機能

この機能はオーバークロック用です。CPU コア電圧が 1.10V から 1.85V まで設定可能です。しかし、このマザーボードは CPU VID 信号も自動的に検出し、適切な CPU コア電圧を生成することもできます。

CPU クロックの設定

BIOS セットアップ > クロック/電圧コントロール > CPU クロック設定

このマザーボードは CPU ジャンパーレス設計で、CPU クロックは BIOS セットアップから設定できますので、ジャンパースイッチ類は不要です。

CPUレシオ	8x, 9x, 10x,...22x, 23x, 24x
CPU FSB	100~248MHz



ヒント: オーバークロックにより、システム起動に失敗してフリーズした場合は、<Home>キーを押すだけで初期値設定に戻ることができます。あるいは、AOpen “Watch Dog Timer”がシステムを再起動するのを五秒間待っていれば、システムがハードウェアを再び自動検査します。

コアクロック = CPU [FSB](#) クロック * CPU レシオ

PCI クロック = CPU FSB クロック / クロックレシオ

[AGP](#) クロック = PCI クロック x 2

Northwood CPU	CPUコアクロック	FSB クロック	システムバス	レシオ
Pentium 4 1.6G	1600MHz	100MHz	400MHz	16x
Pentium 4 1.6G	1600MHz	133MHz	533MHz	12x
Pentium 4 1.7G	1700MHz	133MHz	533MHz	13x
Pentium 4 1.8G	1800MHz	100MHz	400MHz	18x
Pentium 4 2.0G	2000MHz	100MHz	400MHz	20x
Pentium 4 2.2G	2200MHz	100MHz	400MHz	22x
Pentium 4 2.4G	2400MHz	100MHz	400MHz	24x
Pentium 4 2.4G	2400MHz	133MHz	533MHz	18x

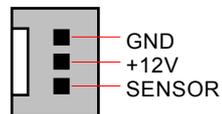
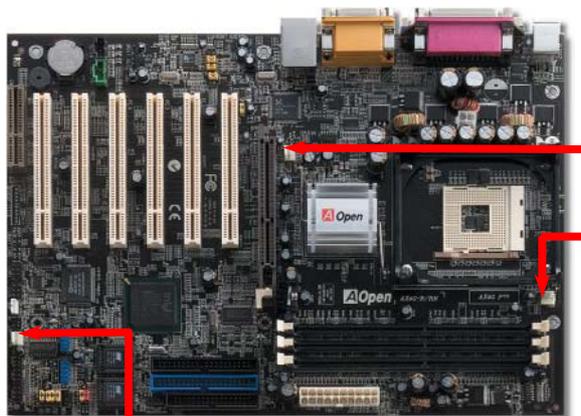
警告: Intel® 845 G チップセットは、最大 400/533MHz (100/133MHz*4) FSB 及び 66MHz AGP クロックをサポートしています。それより高いクロック設定はシステムに重大な損傷を与える可能性があります。

注意: 最新プロセッサの Northwood は自動的にクロックレシオを検出してくれますので、BIOS からクロックレシオを手動調整することはできないかもしれません。

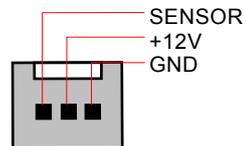
Willamette CPU	CPUコアクロック	FSB クロック	システムバス	レシオ
Pentium 4 1.5G	1500MHz	100MHz	400MHz	15x
Pentium 4 1.6G	1600MHz	100MHz	400MHz	16x
Pentium 4 1.7G	1700MHz	100MHz	400MHz	17x
Pentium 4 1.8G	1800MHz	100MHz	400MHz	18x
Pentium 4 1.9G	1900MHz	100MHz	400MHz	19x
Pentium 4 2.0G	2000MHz	100MHz	400MHz	20x

CPU 及びケースファンコネクタ(ハードウェアモニタ機能付き)

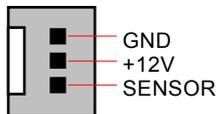
CPU ファンのケーブルを 3 ピンの **CPU FAN** コネクタに差し込んでください。筐体ファンを使用される場合は、ケーブルを **System Fan (FAN2)** または **FAN3 (AUX Fan)** コネクタに差し込むことも可能です。



Fan2 コネクタ



CPU ファンコネクタ

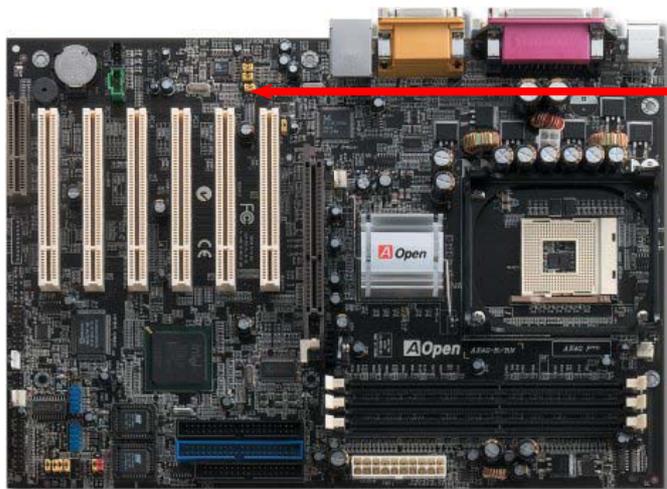


Fan3 コネクタ

注意: CPU ファンによってはセンサ用ピンがないものもあります。この場合、ファンのモニタ機能は使用できません。

JP28 によるキーボード/マウスウェイクアップ機能の設定ジャンパー

当マザーボードにはキーボード/マウスウェイクアップ機能が備わっています。ジャンパーJP28により、マザーボードに接続されたキーボードやマウス操作によりシステムがサスペンドモードからリジュームする機能のオン・オフが可能です。工場出荷時のデフォルト設定では“オフ”(1-2)になっており、ジャンパーを 2-3 に設定するとこの機能がオンになります。



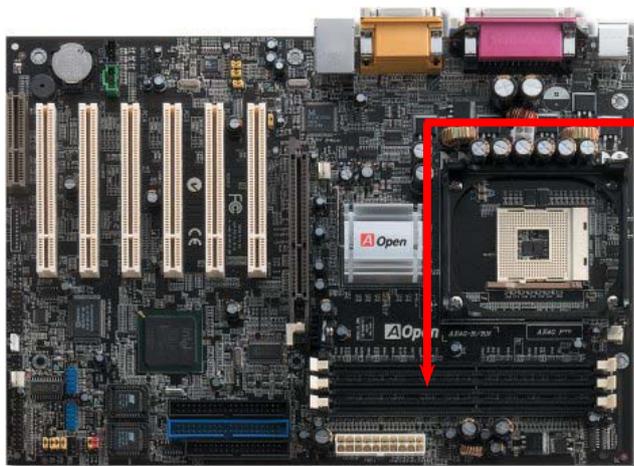
JP28 によるキーボード/
マウスウェイクアップ機能



(初期値)

DIMM ソケット

当マザーボードには 184 ピン [DIMM ソケット](#) が 3 本装備されていますので、[PC266](#) または [PC333](#) メモリが最大 2GB まで搭載可能です。Non-ECC DDR SDRAM がサポートされていますが、両方を同時にソケットに装着してはいけません。さもないと、メモリソケットや SDRAM モジュールに重大な損傷を与える可能性があります。(CPU FSB 533 のみが DDR333 をサポートすることをご注意ください)



DIMM1
DIMM2
DIMM3

警告 : DIMM2 及び DIMM3 ソケットにダブルサイドの DDR SDRAM を同時に装着してはいけないことをご注意ください。既にダブルサイドの DDR SDRAM を二枚装着してある場合に、システムは DIMM2 及び DIMM3 にある二枚の DDR SDRAM から、それぞれシングルサイドのメモリ容量しか検出することができません。しかしながら、上記のようなメモリ装着を避けるようお勧めいたします。さもないと、メモリソケットや SDRAM モジュールに重大な損傷を与えることになります。

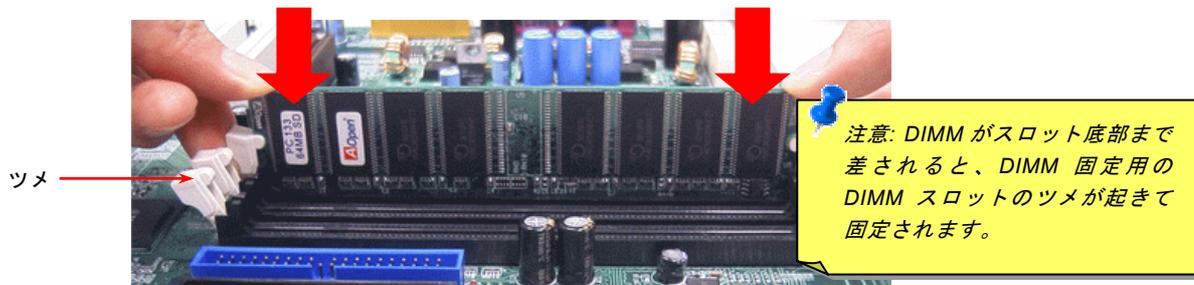
メモリモジュールのインストール方法

メモリのインストールには下記のステップに従います

1. DIMM モジュールのピン側を下にし、下図のようにソケットを合わせます。



2. DIMM ソケットにモジュールを両手でまっすぐ下方に DIMM モジュールが止まるまで差し込みます。



3. 他の DIMM モジュールも同様にステップ 2 の方法を繰り返してインストールします。

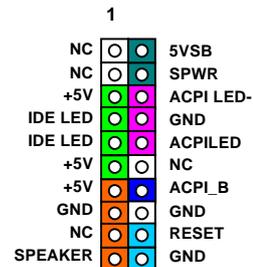
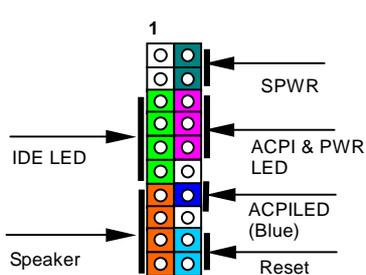
フロントパネルコネクタ



電源 LED、キーロック、スピーカー、電源、リセットスイッチのコネクタをそれぞれ対応するピンに差ししてください。BIOS セットアップで“Suspend Mode” の項目をオンにした場合は、ACPI 及び電源の LED がサスペンドモード中に点滅します。

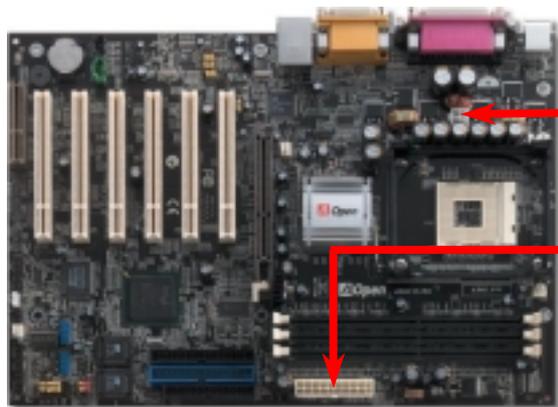
お持ちの ATX 筐体における電源スイッチのケーブルを確認してください。これはフロントパネルから出ている 2-ピンメスコネクタです。このコネクタを SPWR と記号の付いたソフトウェア電源スイッチコネクタに接続します。

サスペンドタイプ	ACPI LED
パワーオンサスペンド(S1) 或いは サスペンドトゥーRAM (S3)	秒毎に点滅します
ハードディスクサスペンド (S4)	LED は消されます



ATX 電源コネクタ

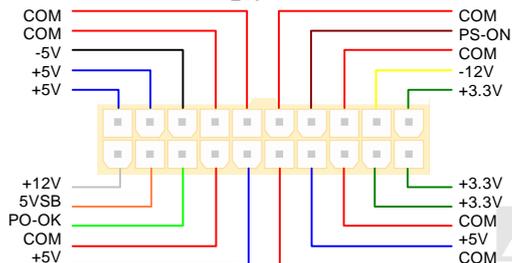
下図のように、このマザーボードには 20 ピン及び 4 ピン ATX 電源コネクタ各 1 個、及び 5V/3.3V 用の予備電源コネクタ 1 個が装備されています。差し込む際は向きにご注意ください。20 ピンのコネクタに接続する前に、まず 4 ピン 12V 用コネクタに接続し、Pentium 4 システム用の電源を使用するようご注意ください。



4 ピン 12V ATX 電源コネクタ



20 ピン電源コネクタ



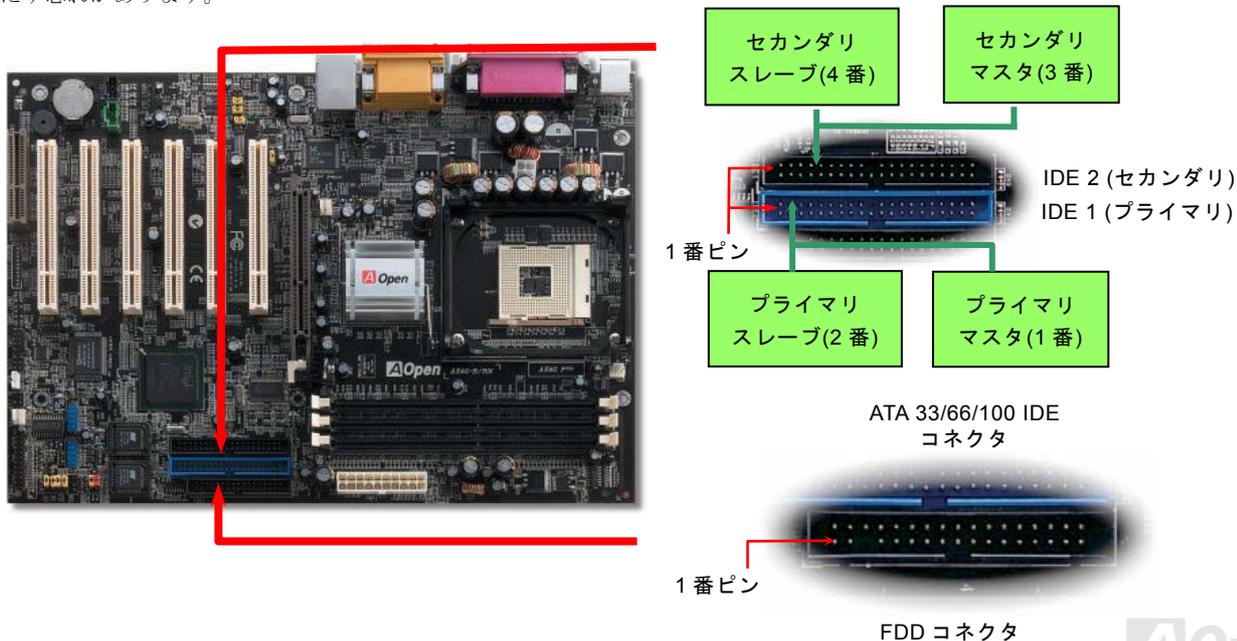
AC 電源自動回復機能

従来の ATX システムでは AC 電源が切断された場合、電源オフ状態からの再開となります。この設計は、無停電電源を使用しない場合に、常に電源オン状態を維持することが要求されるネットワークサーバーやワークステーションにとっては不都合です。この問題を解決するため、当マザーボードには電源自動回復機能が装備されています。



IDE 及びフロッピーコネクタの接続

34 ピンフロッピーケーブルと 40 ピン IDE ケーブルをそれぞれフロッピーコネクタ FDD および IDE コネクタに接続します。確認しやすいため、IDE1 コネクタは青い色となっています。1 番ピンの向きにご注意ください。間違えますとシステムに支障を来す恐れがあります。



IDE1はプライマリチャンネル、IDE2はセカンダリチャンネルとも呼ばれます。各チャンネルは2個のIDEデバイスが接続できますので、合計4個のデバイスが使用可能です。これらを協調させるには、各チャンネル上の2個のデバイスをマスタおよびスレーブモードに指定する必要があります。ハードディスクまたはCDROMのいずれでも接続可能です。モードがマスタかスレーブかはIDEデバイスのジャンパー設定に依存しますので、接続するハードディスクまたはCDROMのマニュアルをご覧ください。

当マザーボードはATA33、ATA66およびATA100のIDEデバイスをサポートしています。下表にはIDE PIO 転送速度およびDMAモードが列記されています。IDEバスは16ビットで、各転送が2バイト単位で行われることを意味します。

モード	クロック周期	クロック カウント	サイクル時間	データ転送速度
PIO mode 0	30ns	20	600ns	$(1/600\text{ns}) \times 2\text{byte} = 3.3\text{MB/s}$
PIO mode 1	30ns	13	383ns	$(1/383\text{ns}) \times 2\text{byte} = 5.2\text{MB/s}$
PIO mode 2	30ns	8	240ns	$(1/240\text{ns}) \times 2\text{byte} = 8.3\text{MB/s}$
PIO mode 3	30ns	6	180ns	$(1/180\text{ns}) \times 2\text{byte} = 11.1\text{MB/s}$
PIO mode 4	30ns	4	120ns	$(1/120\text{ns}) \times 2\text{byte} = 16.6\text{MB/s}$
DMA mode 0	30ns	16	480ns	$(1/480\text{ns}) \times 2\text{byte} = 4.16\text{MB/s}$
DMA mode 1	30ns	5	150ns	$(1/150\text{ns}) \times 2\text{byte} = 13.3\text{MB/s}$
DMA mode 2	30ns	4	120ns	$(1/120\text{ns}) \times 2\text{byte} = 16.6\text{MB/s}$
ATA 33	30ns	4	120ns	$(1/120\text{ns}) \times 2\text{byte} \times 2 = 33\text{MB/s}$
ATA 66	30ns	2	60ns	$(1/60\text{ns}) \times 2\text{byte} \times 2 = 66\text{MB/s}$
ATA100	20ns	2	40ns	$(1/40\text{ns}) \times 2\text{byte} \times 2 = 100\text{MB/s}$

警告: IDE ケーブルの規格は最大 46cm (18 インチ) です。ご使用のケーブルの長さがこれを超えないようご注意ください。

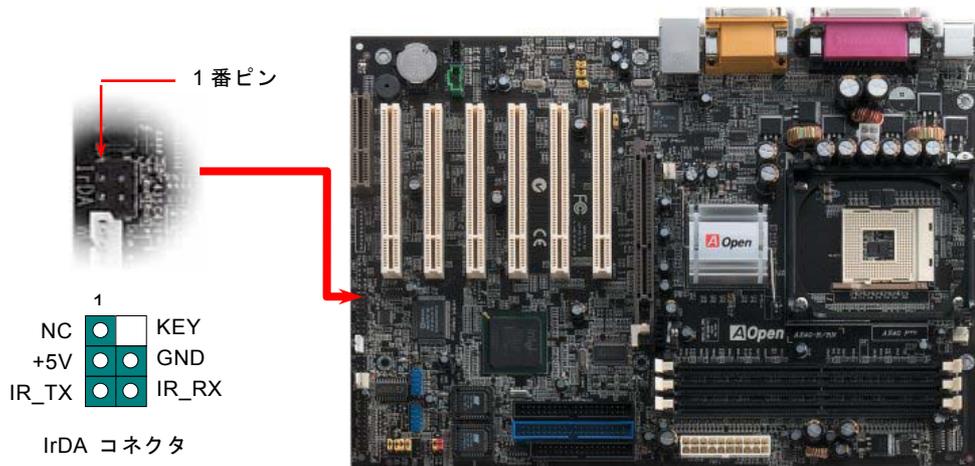
ヒント:

1. 信号の品質確保のため、一番離れた側の端子をマスタとし、提案された順序にしたがって新たにデバイスをインストールしてください。上図をご参考になってください。
2. Ultra DMA 33/66/100 ハードディスクの機能を最大限引き出すには、Ultra DMA 33/66/100 専用 80 芯線 IDE ケーブルが必要です。

IrDA コネクタ

IrDA コネクタはワイヤレス赤外線モジュールの設定後、Laplink や Windows95 Direct Cable Connection 等のアプリケーションソフトウェアと併用することで、ユーザーのラップトップ、ノートブック、PDA デバイス、プリンタ間でのデータ通信をサポートします。このコネクタは HPSIR (115.2Kbps, 2m 以内)および ASK-IR (56Kbps)をサポートします。

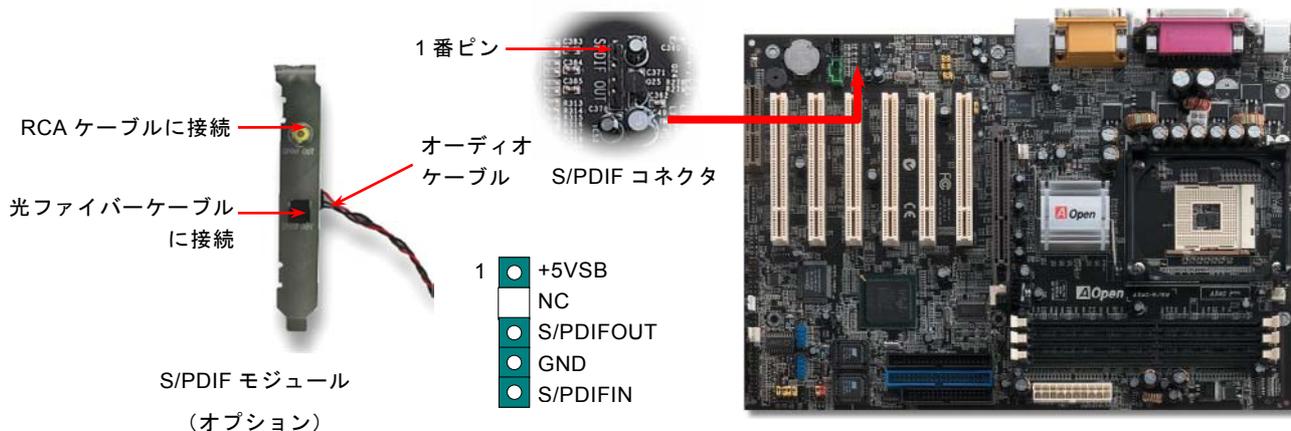
IrDA コネクタに赤外線モジュールを差し込んで、BIOS セットアップの UART2 モードで正しく設定します。IrDA コネクタを差す際は方向にご注意ください。





S/PDIF (Sony/Philips デジタルインタフェース)コネクタ

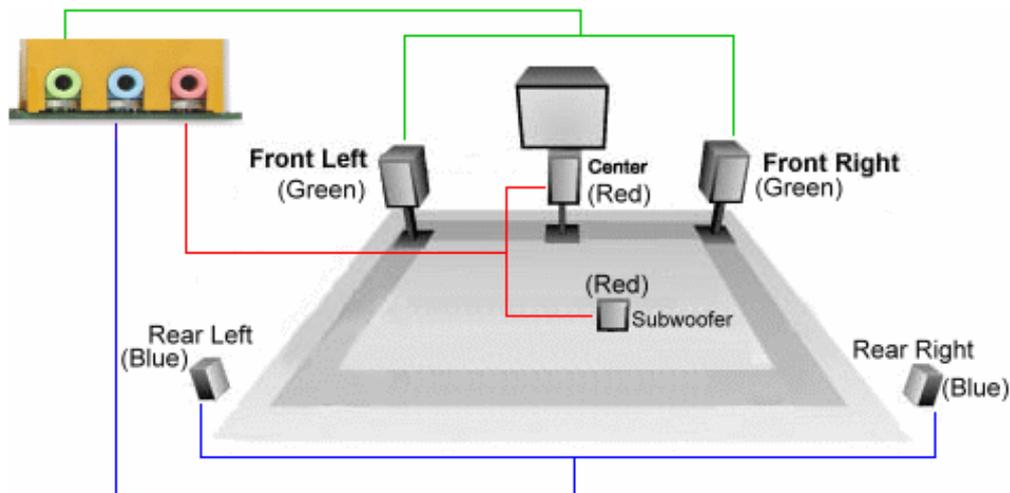
S/PDIF (Sony/Philips デジタルインタフェース)は最新のオーディオ転送ファイル形式で、アナログに取って代わるデジタルオーディオを光ファイバー経由で楽しめます。図示されているように S/PDIF 出力は 2 つあり、一方は大部分の消費型オーディオ製品に対応する RCA コネクタ、他方はより高品質のオーディオに対応する光コネクタです。専用オーディオケーブルにより、S/PDIF コネクタと別の S/PDIF デジタル出力をサポートする S/PDIF オーディオモジュールを接続します。ただし、S/PDIF デジタル出力の長所を最大限活かすにはモジュールの S/PDIF 出力を S/PDIF デジタル入力対応スピーカーに接続する必要があります。





高音質の 5.1 チャンネルオーディオ効果

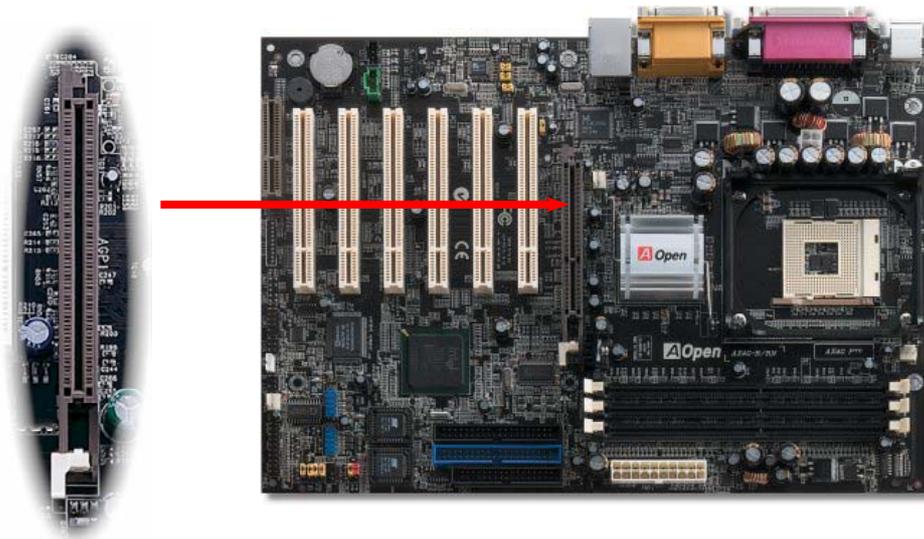
当マザーボードには高音質の 5.1 チャンネル対応の ALC650 CODEC が搭載され、新鮮な音声が楽しめます。ALC650 の革新的なデザインにより、外部モジュールを接続せずに、標準的なラインジャックでサラウンドオーディオを出力することができます。この機能を使用するには、**Bonus Pack CD** からオーディオドライバ及び 5.1 チャンネル対応のオーディオアプリケーションをインストールする必要があります。下図は 5.1 チャンネルサウンドトラックにある全てのスピーカーの標準位置を示しています。フロントスピーカーのプラグを緑の“スピーカー出力”ポートに接続し、リアスピーカーのプラグを青の“ライン入力”ポートに接続し、そしてセンター及びサブウーファースピーカーを赤の“マイク入力”ポートに接続してください。





AGP スロット

Intel 845G チップセットの採用により、この AGP スロットは装着されるカードの種類、例えば AGP カードや ADD (AGP デジタルディスプレイ) カードで、自動的に AGP スロットになったり、マルチプレクス (多重化) Intel DVO 出力スロットに変わったりします。ADD カードをこのスロットに装着することで、マルチプレクス Intel DVO 出力はデジタルディスプレイやテレビ出力に高速デジタル接続機能を提供します。AGP 機能に関しては、このスロットは 1.5V AGP カードのみをサポートしますので、3.3V AGP カードを装着しないでください。さもないと、マザーボードに重大な損傷を与える可能性があります。

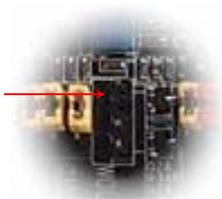


警告：3.3V AGP カードを装着しないでください。さもないと、マザーボードに重大な損傷を与える可能性があります。

WOM (ゼロボルトウェイクオンモデム) コネクタ

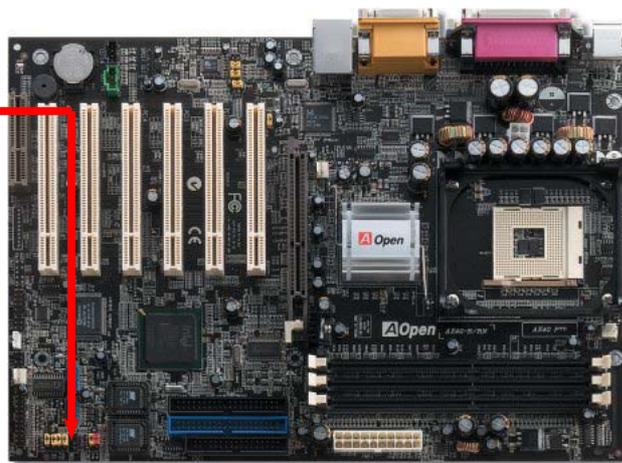
このマザーボードには内蔵モデムカードおよび外付けモデムの双方をサポートするウェイクオンモデム機能が備わっています。内蔵モデムカードはシステム電源オフの際、電力消費はゼロなので内蔵モデムの使用をお勧めします。内蔵モデムを使用するには、モデムカードの RING コネクタからの 4 ピンケーブルをマザーボードの WOM コネクタに接続してください。

1 番ピン



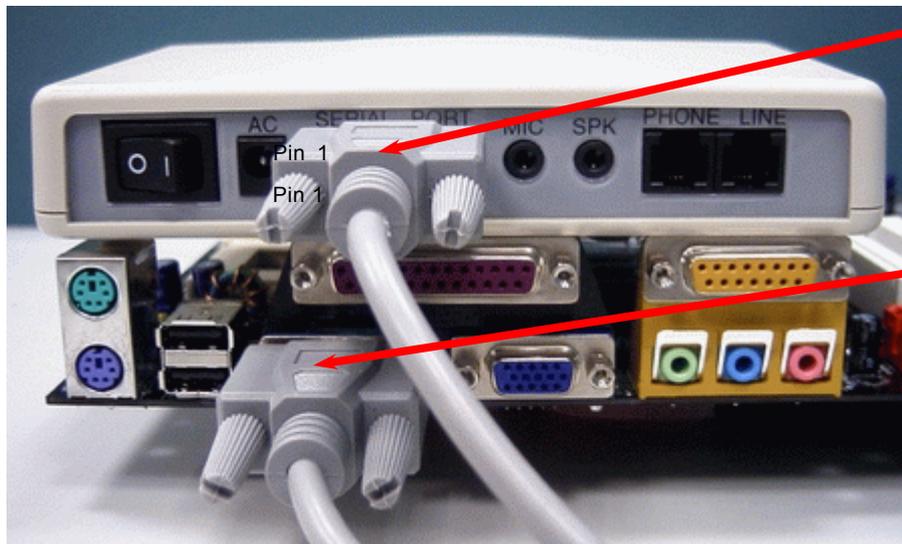
WOM コネクタ

+5VSB	
NC	
RI-	
GND	



外付けモデムによる WOM 機能

従来のグリーン PC のサスペンドモードはシステム電源供給を完全にはオフにはせず、外付けモデムでマザーボードの COM ポートを活性化し、動作に復帰します。



シリアルポート
(モデム側)

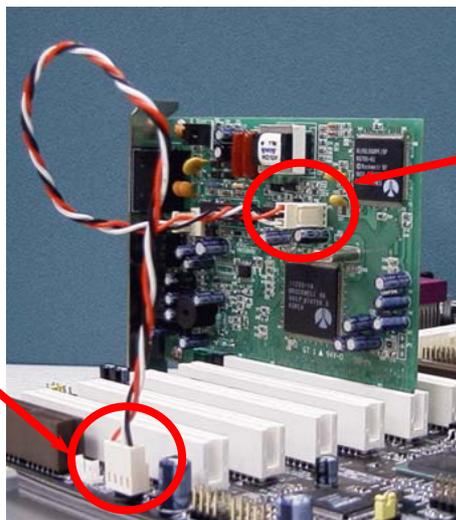
シリアルポート
(マザーボード側)

注意: この図は参考用のみですので、当マザーボードと確実に一致するわけではありません。

内蔵モデムカードによる WOM 機能

ATX のソフトパワーオン・オフ機能により、システムを完全にオフにしても着信時に自動的にウェイクアップして、留守電またはファックスの送受信を行うことが可能です。システム電源が完全にオフであるかどうかはパワーサプライのファンがオフかどうかで判断できます。外付けモデムと内蔵モデムカードの双方がモデムウェイクアップ機能をサポートできますが、外付けモデムを使用する際は、モデム電源をオンにしておく必要があります。

WOM コネクタ
(マザーボード側)

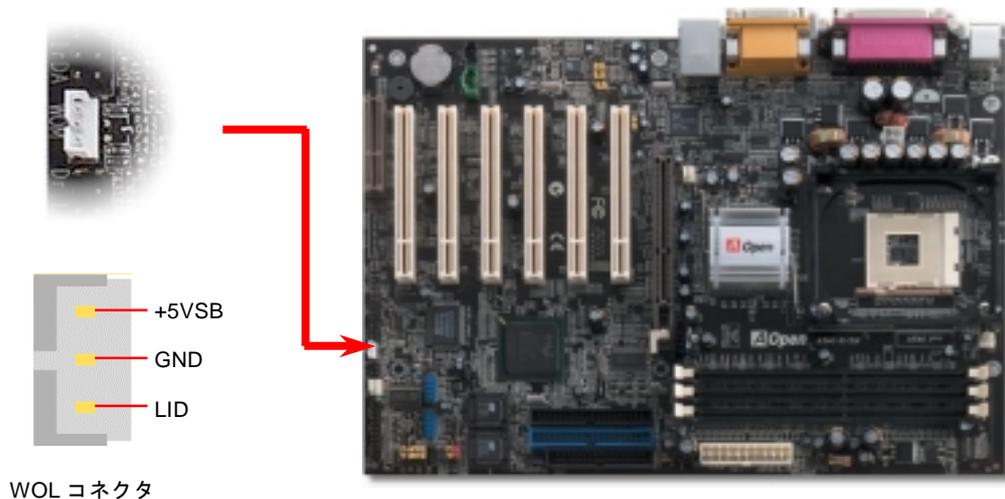


WOM コネクタ
(モデムカード側)

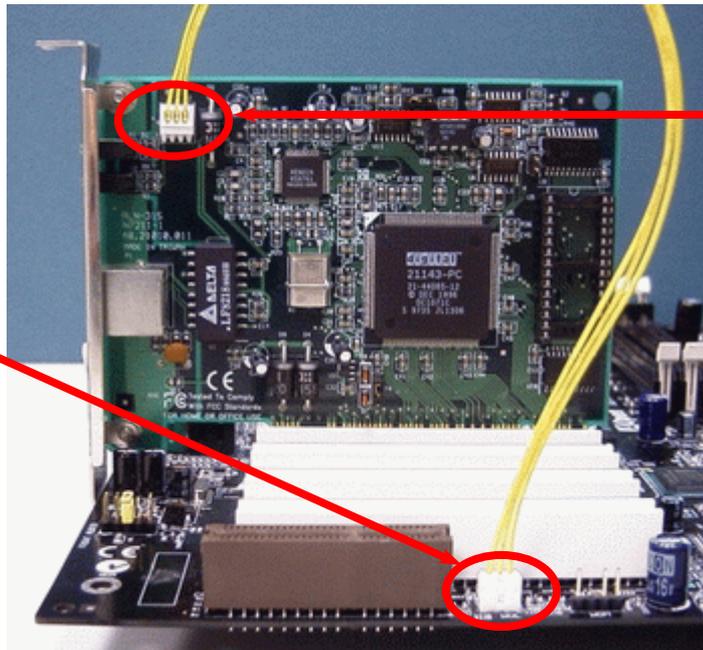
注意: この図は参考用のみですので、当マザーボードと確実に一致するわけではありません。

WOL (ウェイクオンLAN) 機能

この機能は [ウェイクオンモデム](#) と酷似していますが、これはローカルエリアネットワークを対象としています。LAN ウェイクアップ機能を使用するには、この機能をサポートするチップセット搭載のネットワークカードが必要である上に、ケーブルで LAN カードをマザーボードの WOL コネクタに接続してください。システム判別情報(おそらく IP アドレス)はネットワークカードに保存され、イーサネットには多くのトラフィックが存在するため、システムをウェイクアップさせる方法は ADM 等のネットワークソフトウェアを使用することが必要となります。この機能を使用するには、LAN カードへの ATX からのスタンバイ電流が最低 600mA 必要であることにご注意ください。



WOL コネクタ
(マザーボード側)

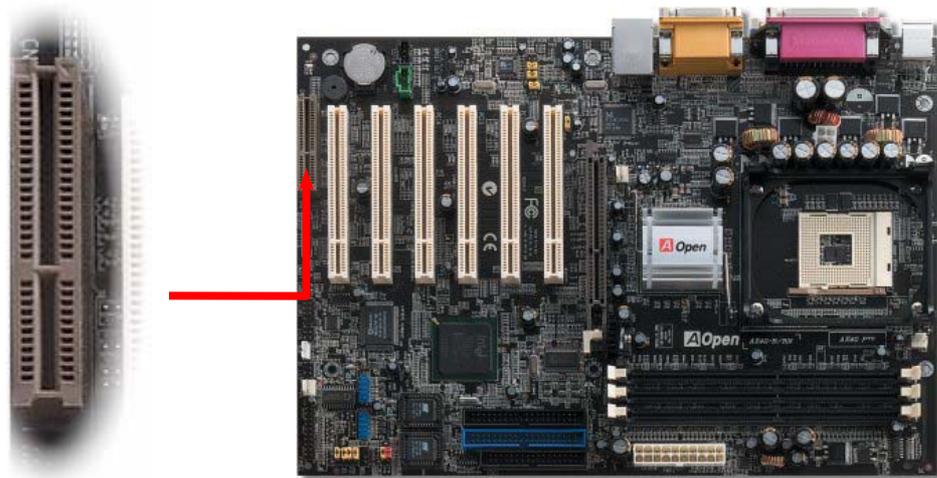


WOL コネクタ
(イーサネットカード側)

注意: この図は参考用のみですので、当マザーボードと確実に一致するわけではありません。

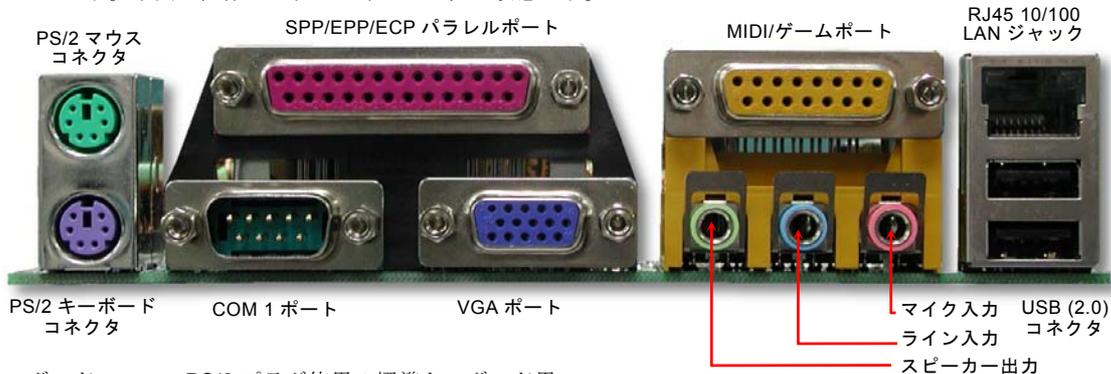
CNR(コミュニケーション及びネットワークライザー)拡張スロット

CNR は **AMR (オーディオ/モデムライザー)** に取って代わって V.90 アナログモデム、多チャンネルオーディオ、テレフォニーをネットワーク環境でサポートするライザー仕様です。CPU の計算能力の向上に伴い、デジタル処理操作をメインチップセットに組み込んで CPU パワーの一部が利用できるようになりました。コード変換 (**CODEC**)回路は別の独立した回路設計が必要ですので **CNR** カード上に組み込まれます。当マザーボードにはオンボードでサウンド CODEC が装備されていますが、モデム機能のオプションとして予備の **CNR** スロットも用意されています。もちろん、引き続き PCI モデムカードもご使用になれます。



PC99 カラーコード準拠バックパネル

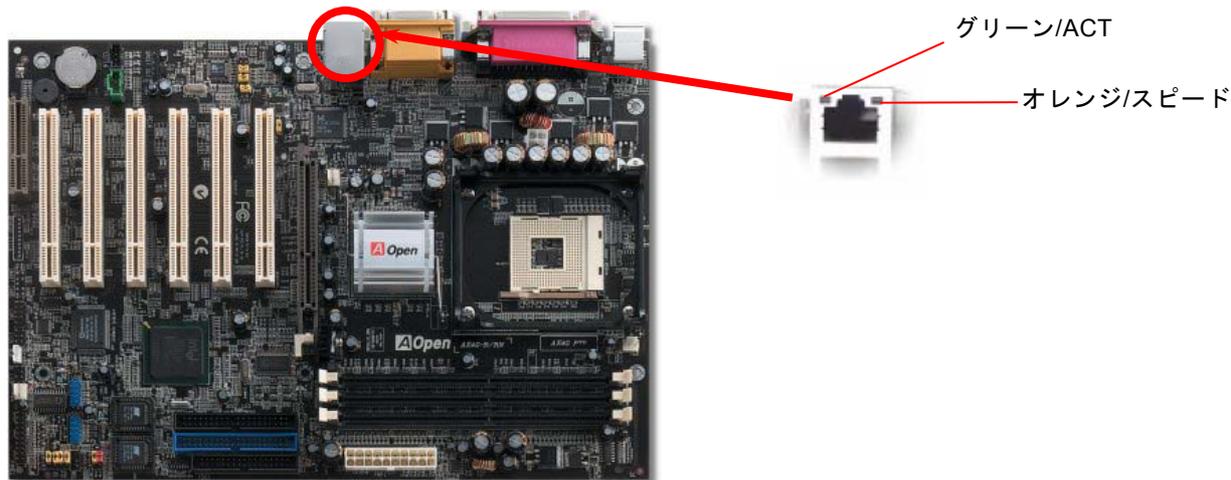
オンボードの I/O デバイスは PS/2 キーボード、PS/2 マウス、COM1 と VGA、プリンタ、[USB \(2.0\)](#)、AC97 サウンドコーデック、ゲームポートです。下図は筐体のバックパネルから見た状態です。



PS/2 キーボード:	PS/2 プラグ使用の標準キーボード用
PS/2 マウス:	PS/2 プラグ使用の PC-マウス用
USB ポート:	USB デバイスの接続用
パラレルポート:	SPP/ECP/EPP プリンタの接続用
COM1/COM2 ポート:	ポインティングデバイス、モデム、その他のシリアルデバイスの接続用
VGA コネクタ:	PC モニタとの接続用
スピーカー出力:	外部スピーカー、イヤホン、アンプへの出力接続用
ライン入力:	CD/テーププレーヤー等からの信号源からの入力接続用
マイク入力:	マイクロホンからの入力接続用
MIDI/ゲームポート:	15-ピン PC ジョイスティック、ゲームパッドまたは MIDI デバイスへの接続用

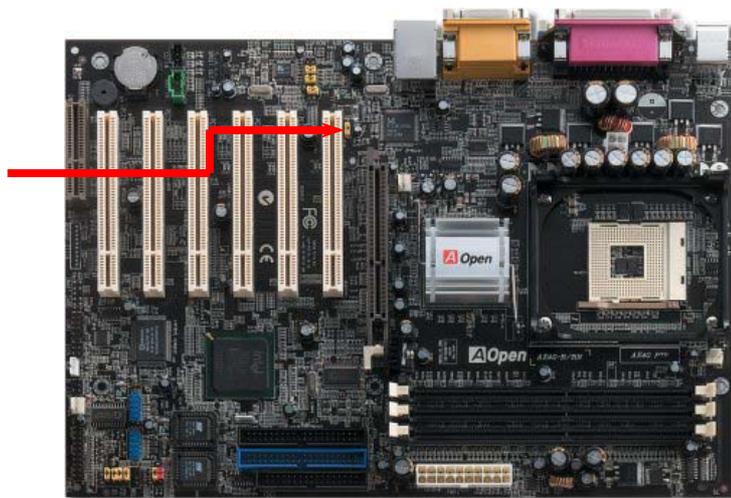
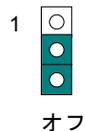
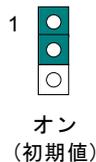
オンボードの 10/100 Mbps LAN 機能

サウスブリッジ ICH4 にはファストイーサネットコントローラーが内蔵されています。高度に統合化されたプラットフォーム LAN 接続デバイスである RealTek 8100BL LAN コントローラーをオンボードで搭載することにより、オフィスや家庭用の 10/100Mbps イーサネットを提供します。イーサネット RJ45 コネクタの位置は USB コネクタの上にあります。緑の LED はリンクモードを表示します。ネットワークに接続している場合に点灯しますが、データを転送している場合に点滅します。オレンジの LED は転送モードを表示します。100Mbps モードでデータを転送している際に点灯します。この機能をオン/オフ するには、BIOS により調整可能です。



JP13 による LAN 機能の設定ジャンパー

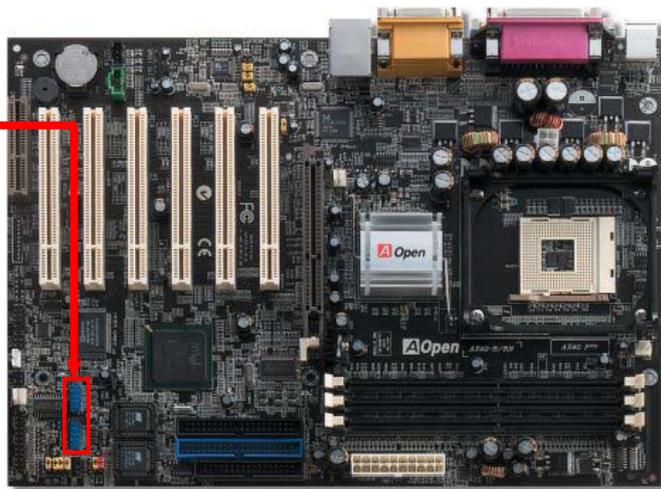
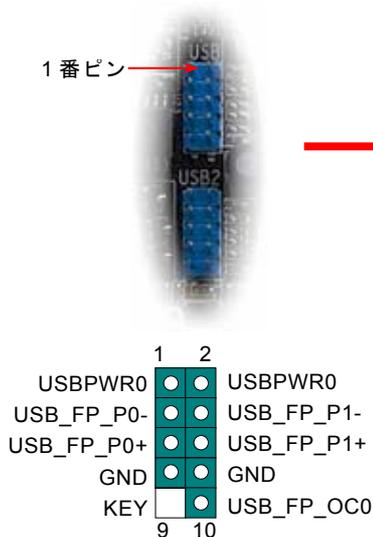
JP13 はオンボードの LAN 機能の設定に使用されます。オンボードの LAN 機能をオフにしたい場合に、このジャンパーを 2-3 に設定してください。





6 個の USB 2.0 コネクタをサポート

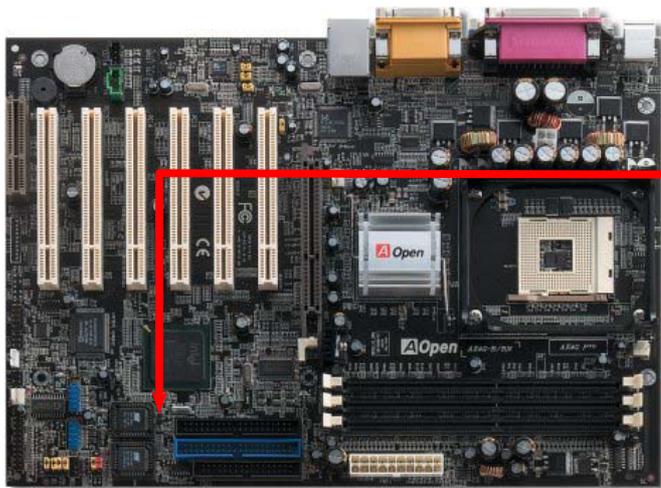
従来の USB 1.0/1.1 規格では最大 12Mbps の転送となりますが、USB 2.0 規格の転送速度はその 40 倍であり、最高 480Mbps の転送レートを実現します。転送レートを向上させるほか、USB 2.0 は USB 1.0/1.1 規格のソフトウェア及び周辺機器をサポートし、ユーザーにより高い互換性を提供しています。当マザーボードに搭載されている 6 個の USB コネクタは全て USB2.0 規格対応です。適切な USB ケーブルにより、これらの 2 個コネクタを USB デバイスに接続することができます。



USB2 及び USB3 コネクタ

ケース開放センサーコネクタ

この“CASE OPEN”コネクタはケース開放監視機能を提供します。この機能を使用するには、システム BIOS からこの機能を有効に設定し、そしてこのコネクタをケースのセンサーに接続してください。光やケースの開放によってセンサーが起動されたら、システムはビービーの警告音声で知らせてくれます。この有用な機能はハイエンドのケースにしか使えないことにご注意ください。センサーを購入し、ご使用のケースに取り付けてこの機能を有効に利用することもできます。

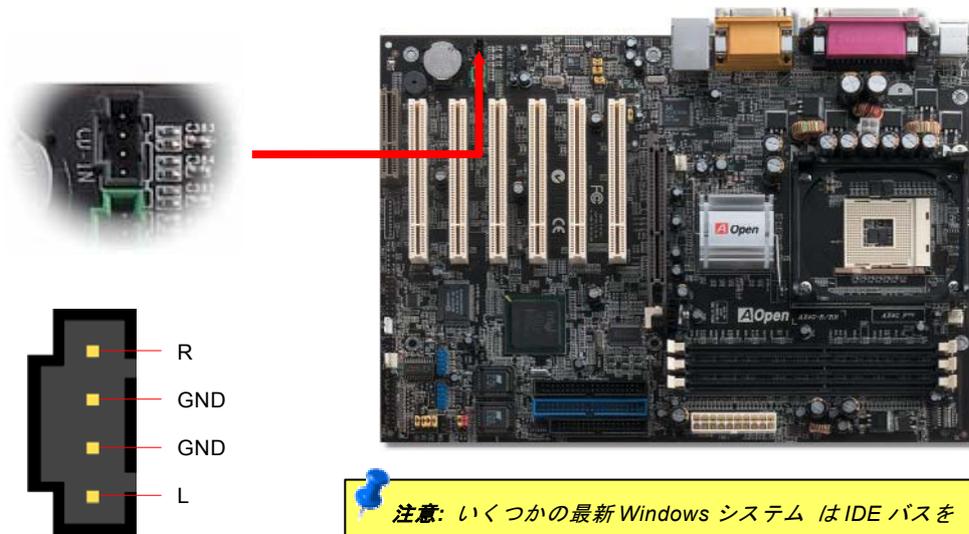


- 1 ● SENSOR
- GND

ケース開放監視センサー
コネクタ

CD オーディオコネクタ

このコネクタはCDROMまたはDVDドライブからのCDオーディオケーブルをオンボードサウンドに接続するのに使用します。

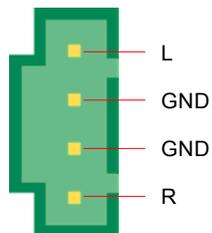


CD 入力コネクタ

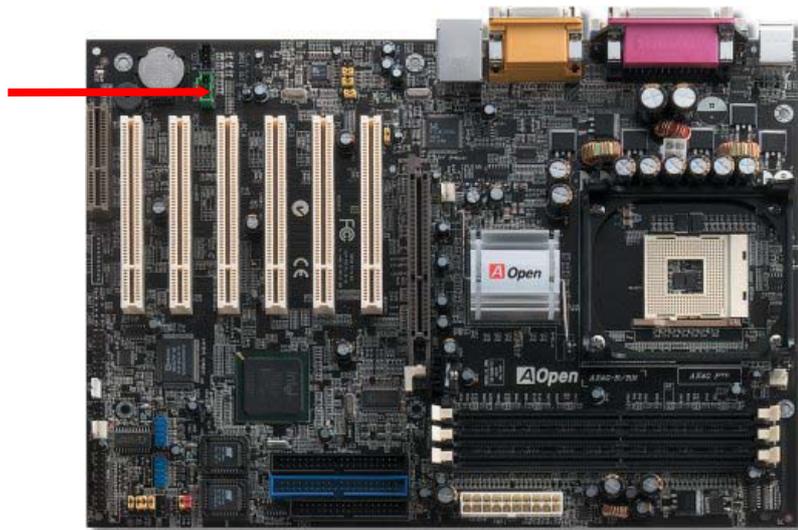
注意: いくつかの最新 Windows システム は IDE バスを介した“Digital Audio”をサポートしています。しかしながら、BIOS によって駆動される Open Jukebox プレイヤーを使用するためには、オーディオケーブルをマザーボード上の CD-IN コネクタに**必ず**接続しなければなりません。

AUX 入カコネクタ

このコネクタは MPEG カードからの MPEG オーディオケーブルをオンボードサウンドへ接続するのに使用します。



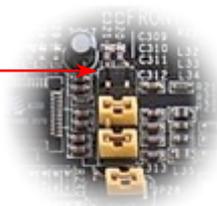
AUX 入カコネクタ



フロントオーディオコネクタ

ケースのフロントパネルにオーディオポートが設定されている場合、オンボードオーディオからこのコネクタを通してフロントパネルに接続できます。なお、ケーブルを接続する前にフロントパネルオーディオコネクタから 5、6、9、10 番のジャンパーキャップを外してください。フロントパネルにオーディオポートがない場合は 5、6、9、10 番の黄色いキャップを外さないでください。

1 番ピン



	1	2		
AUD_MIC	●	●	AUD_GND	
AUD_MIC_BIAS	●	●	AUD_VCC	
AUD_FPOUT_R	●	●	AUD_RET_R	
NC	●	□	KEY	
AUD_FROUT_L	●	●	AUD_RET_L	
	9	10		

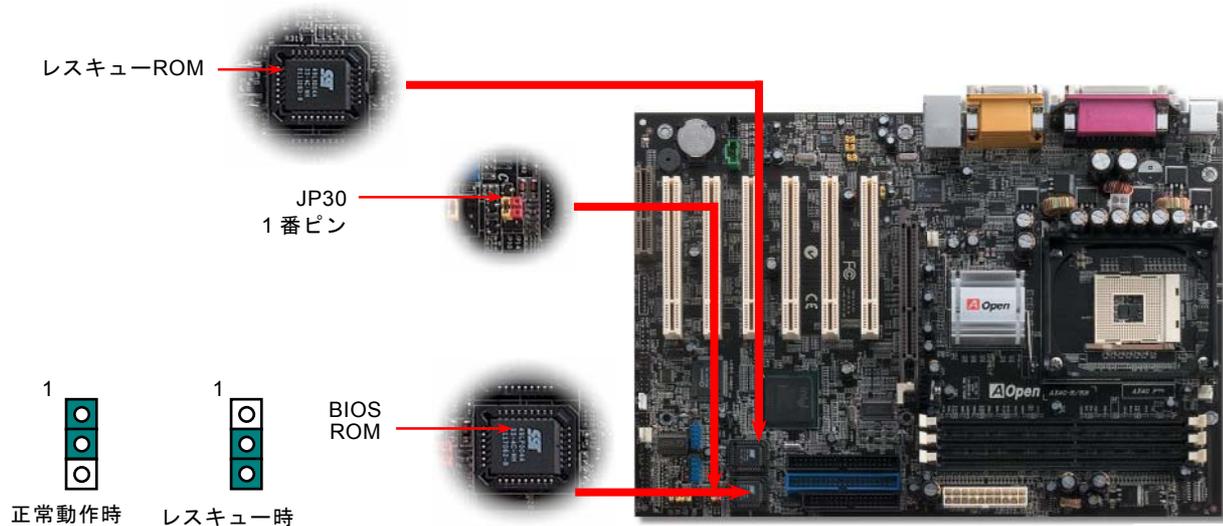


注意: ケーブルを接続する前にフロントパネルのオーディオコネクタからジャンパーキャップを外してください。フロントパネルにオーディオポートがない場合はこの黄色いキャップを外さないでください。

ダイハードBIOS

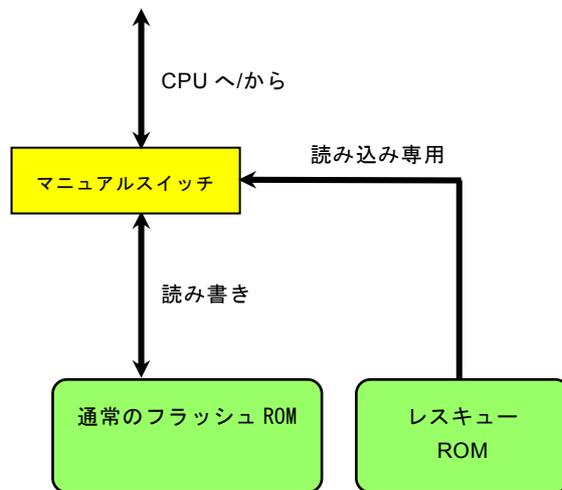
最近数多くのコンピュータウイルスは BIOS コードおよびデータ領域を破壊する事で知られています。それで当マザーボードのレスキューBIOSには、ソフトウェアや BIOS コードに依存しないハードウェアによる予防対策が取られており、ウイルスを 100%防止できます。

仮にメインの BIOS がウイルスに感染してしまったり、なんらかの障害で BIOS が正常に動作しない場合でも、JP30 を 2-3 に設定することでレスキュー時の BIOS ROM から復帰可能です。



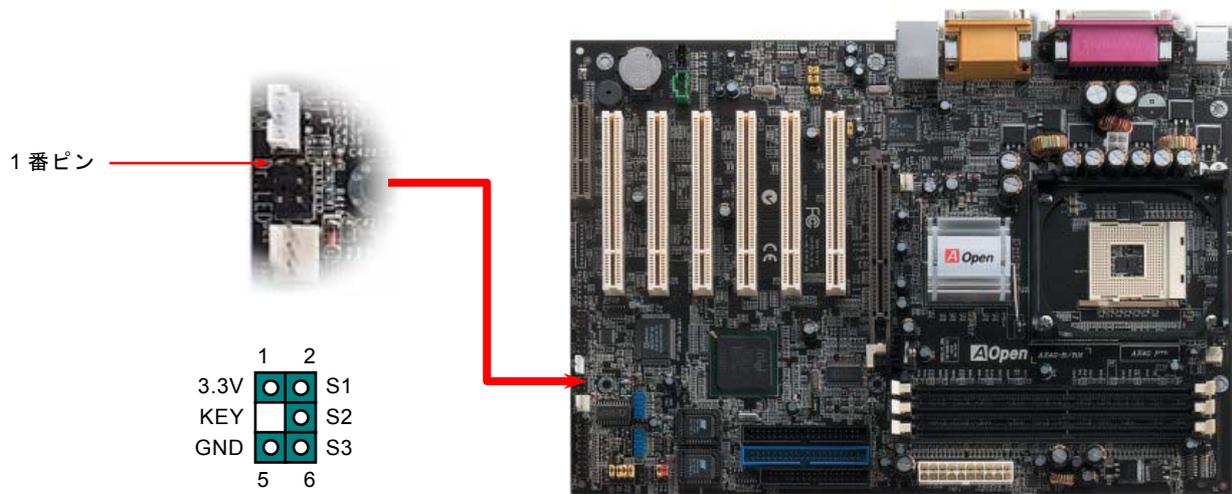
ダイハードBIOS 用外部コントローラ

外部コントローラーにより、コンピュータの筐体を開けずに BIOS モードを“レスキュー”および“ノーマル”間で切り替えられます。これにはマザーボードのコネクタピン(JP30)にジャンパーケーブルを差す必要があります。コネクタの向きにご注意ください。赤い線が 1 番ピン側に合わせます。

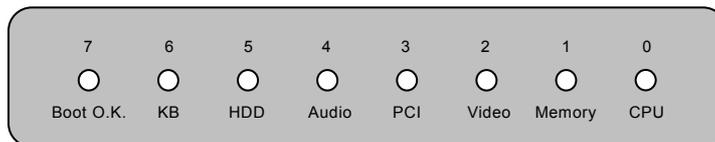


Dr. LED コネクタ

Dr. LED (オプション) を併用すると、PC 組立て時に直面するシステム上の問題が容易に把握できます。Dr. LED のフロントパネルにある 8 個の LED 表示により、問題がコンポーネントなのか、インストール関係なのかを理解できます。これによりご使用のシステムの自己チェックが容易に行えます。



Dr. LED はフロントパネルに 8 個の LED を有する CD ディスク保管ボックスで、Dr. LED のサイズは 5.25 フロッピードライブと全く同じですから、通常の筐体の 5.25 インチドライブベイに容易にインストールできます。



システム起動時にエラーが生じると 8 個の内その段階に応じた LED が点灯します。7 番 LED (最後に点灯する LED) が点灯すれば、システムは正常に起動したことを表します。

8 個の LED はそれぞれ点灯時に以下の意味を有します。

LED 0 –CPU が正しくインストールされていないか故障しています。

LED 1 –メモリが正しくインストールされていないか故障しています。

LED 2 –AGP が正しくインストールされていないか故障しています。

LED 3 –PCI カードが正しくインストールされていないか故障しています。

LED 4 –フロッピードライブが正しくインストールされていないか故障しています。

LED 5 –HDD が正しくインストールされていないか故障しています。

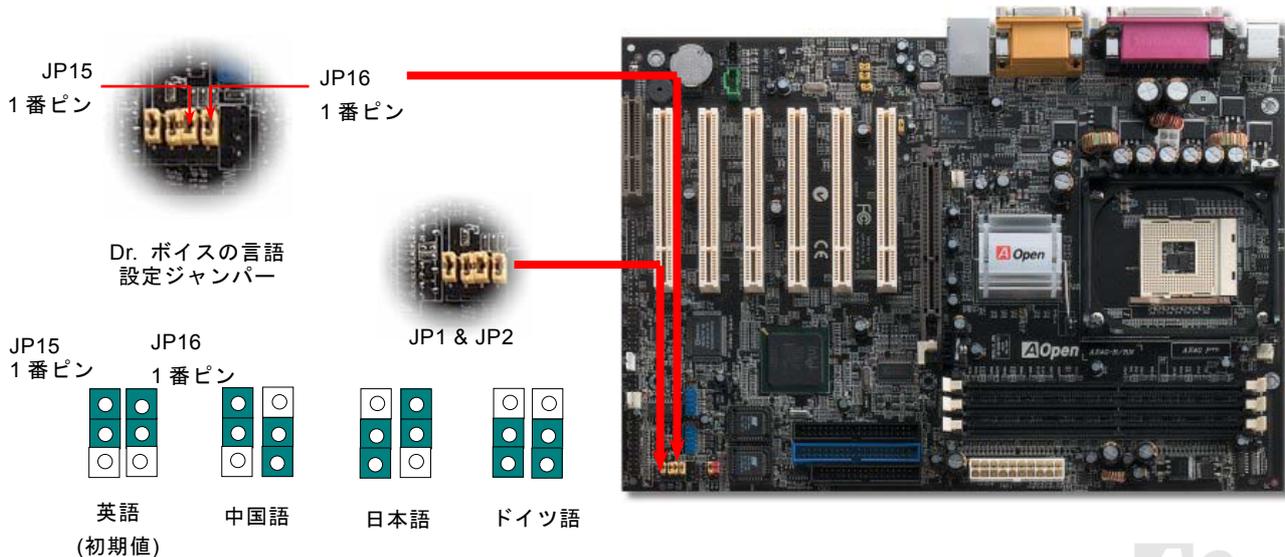
LED 6 –キーボードが正しくインストールされていないか故障しています。

LED 7 –システムは正常に起動しています。

注意: POST (電源投入時の自己診断) 実行中に、システム起動完了までの間、デバッグ LED は LED0 から LED7 まで順繰りに点灯します。

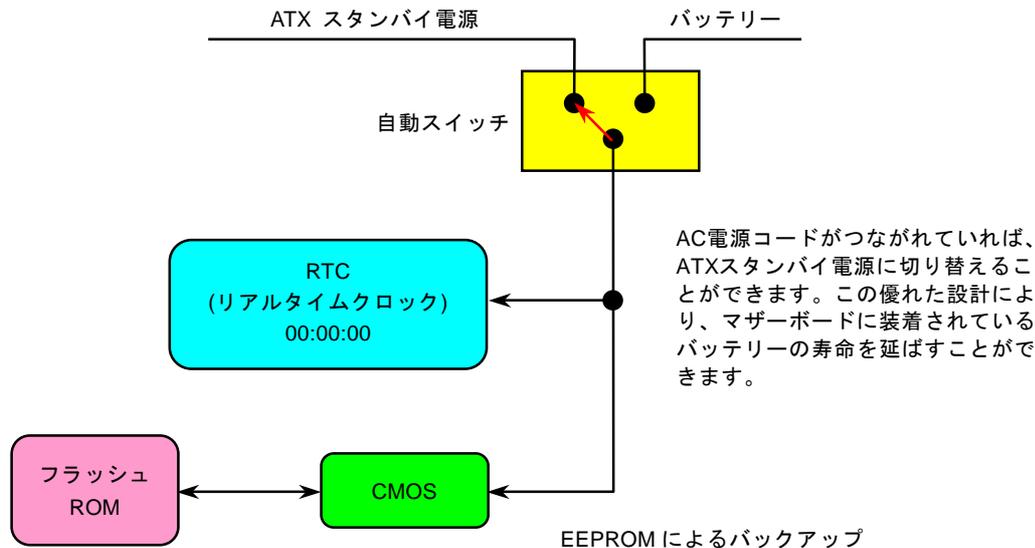
Dr.ボイス

Dr. ボイスは AX4G Pro マザーボードの素晴らしい機能です。これでユーザーは基本ソフトにおいて生じる問題を容易に理解できます。この機能で問題が CPU、メモリモジュール、VGA、PCI アドオンカード、FDD、HDD、キーボード等、コンポーネントやインストールのどの部分かを“音声通知”します。Dr.ボイスでは英語、ドイツ語、日本語、中国語の 4 つの言語バージョンが指定可能です。言語指定は JP15 および JP16 で行います。Dr. ボイス機能をオフにするには、JP1 と JP2 を 2 番と 3 番ピンに設定し、それぞれプザーとスピーカーからの音声を消すことができます。



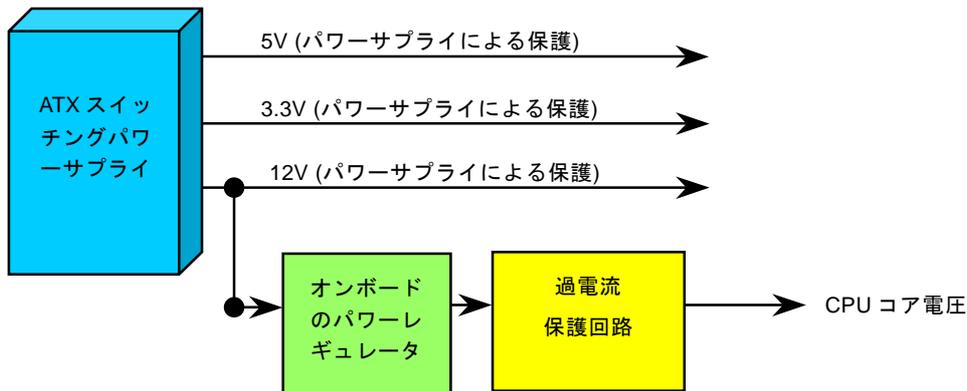
バッテリー不要及び耐久設計

当マザーボードにはフラッシュ ROM と特殊回路が搭載されていますので、ご使用の CPU と CMOS 設定をバッテリー無しで保存できます。RTC (リアルタイムクロック) は電源コードが繋がれている間動作し続けます。何らかの理由で CMOS データが紛失された場合、フラッシュ ROM から CMOS 設定を再度読み込むだけでシステムは元の状態に復帰することができます。



過電流保護

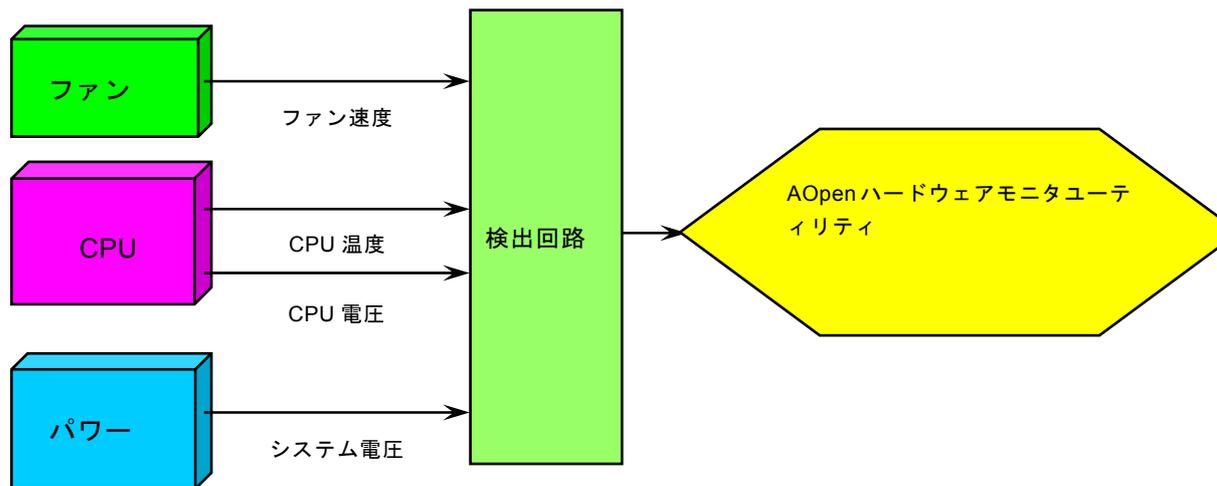
過電流保護機能はATX 3.3V/5V/12Vのスイッチングパワーサプライに採用されている一般的な機能です。しかしながら、新世代のCPUは違う電圧を使用し、12VからCPU電圧（例えば2.0V）を独自に生成するため、12Vの過電流保護は意味を持たなくなります。当マザーボードにはCPU過電流保護をオンボードでサポートするスイッチングレギュレータを採用、3.3V/5V/12Vのパワーサプライに対するフルレンジの過電流保護を提供しています。



注意: 保護回路の採用により人為的な操作ミスを防ぐようになっていますが、このマザーボードにインストールされているCPU、メモリ、ハードディスク、アドオンカード等がコンポーネントの故障、人為的操作ミス、原因不明の要素により損傷を受ける場合がありますので、AOpenは保護回路が常に正しく動作することを保証いたしかねます。

ハードウェアモニタ機能

当マザーボードにはハードウェアモニタ機能が備わっています。この巧みな設計により、システムを起動した時から、システム動作電圧、ファンの状態、CPU 温度を監視されます。これらのシステム状態のいずれかが問題のある場合、ケース内部のスピーカーやマザーボード上のブザー（存在している場合）より、警告メッセージが出されます。





AOConfig ユーティリティ

AOOpen はユーザーにより操作しやすいコンピュータ環境を提供できるよう日々努力しています。いま、新たに総合システムの検出ユーティリティを提供します。AOconfig ユーティリティは操作しやすいインターフェースをサポートする Windows ベースユーティリティで、ユーザーがこれで基本ソフト及びマザーボード、CPU、メモリ、PCI デバイスや IDE デバイスなどのハードウェアに関する情報を取得することができます。この強力なユーティリティにおいて BIOS とファームウェアのバージョンも表示されますので、メンテナンス作業を容易にできます。

さらに、AOconfig ユーティリティにより、ユーザーは関連情報を BMP または TXT 形式で保存することができますので、詳細なシステム情報を収集し、そして直接 AOOpen に送り、テクニカルサポートやシステム問題の更なる詳細診断が可能となります。

System

Compu Name	AK77-333	Curr User	Administrator
Language	English (United States)	Date/Time	2002/4/25 17:46:17

OS and Memory

OS Name	Microsoft Windows 2000	Total Size	523760 KB
OS Version	5.0.2195	Avail (Fry)	455824 KB
Other Info	Service Pack 2	Total Pages	2065296 KB

Processor

Processor	AMD Athlon(TM)XP	Family	6	In-Clock	1541 MHz
Vendor	AuthenticAMD	Model	6	FSB	134 MHz
Socket Type	Socket A	Step	2	Ratio	11.5

Motherboard

Manufacturer	AOOpen Inc.	Model Name	AK77-333
Revision	R1.02N	Release Date	Apr.18.2002

BIOS

Vendor	Phoenix Technologies, LTD		
RDM Size	256 KB	Version	6.00 PG

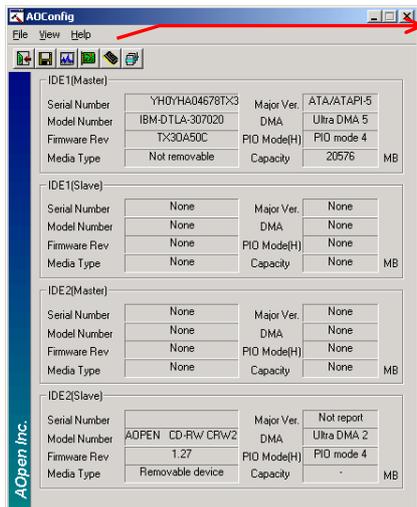
1. このシステムページには、マザーボード、基本ソフト、プロセッサ及び BIOS バージョンの詳細情報が記載されています。

2. この PCI デバイスページには、マザーボードにインストールされている全ての PCI デバイスの関連設定情報が記載されてい

Bus	Dev	Fun	Device Description
00	00	00	VIA Standard CPU to PCI Bridge
00	01	00	VIA CPU to AGP Controller
00	06	00	VIA USB Universal Host Controller
00	06	01	VIA USB Universal Host Controller
00	06	02	VIA USB 2.0 Enhanced Host Controller
00	11	00	VIA Standard PCI to ISA Bridge
00	11	01	VIA Bus Master IDE Controller
00	11	02	VIA USB Universal Host Controller
00	11	03	VIA USB Universal Host Controller
00	11	05	Avance ACS7 Audio for VIA (R) Audio Controller
01	00	00	AOOpen GeForce3 - Windows XP/2k Driver v27.50

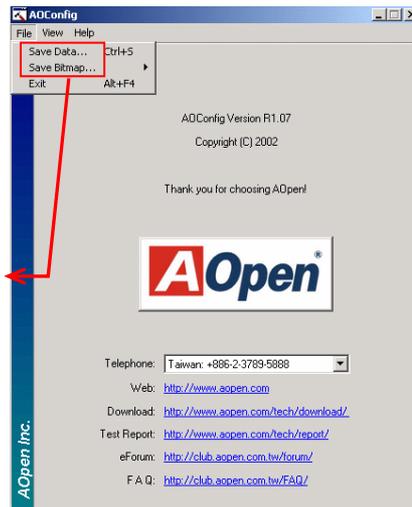
Detail Information

Vendor ID	Device ID
Revision	SubSystem
Device Class	IRQ



3. このページには、シリアルナンバー、製造元、ファームウェアバージョン及びキャパシティなどのIDE デバイス情報が記載されています。

4. このページより、ユーザーはAOpen のテクニカルサポート情報を取得することができます。さらに、詳細情報がBMPまたはTXT形式で保存することができます。

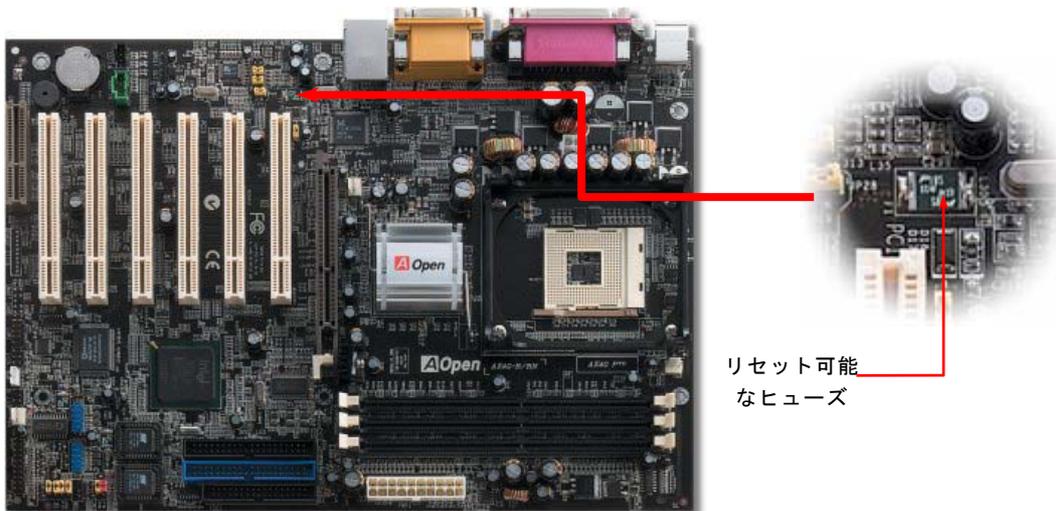


注意: AOconfig ユーティリティは Windows 98SE/ME、NT4.0/2000 または最新の Windows XP において使用可能です。ご注意くださいのは、AOconfig ユーティリティは AOpen マザーボード装着のシステムにのみ使用可能です、また、AOconfig ユーティリティを開始する前に、あらゆるアプリケーションを閉じてください。

リセット可能なヒューズ

従来のマザーボードではキーボードやUSBポートの過電流または短絡防止にヒューズが使用されています。これらのヒューズはボードにハンダ付けされていますので、故障した際(マザーボードを保護するため)、ヒューズを交換できず、マザーボードも故障したままにされることになります。

高価なリセット可能なヒューズの保護機能により、マザーボードは正常動作に復帰できます。

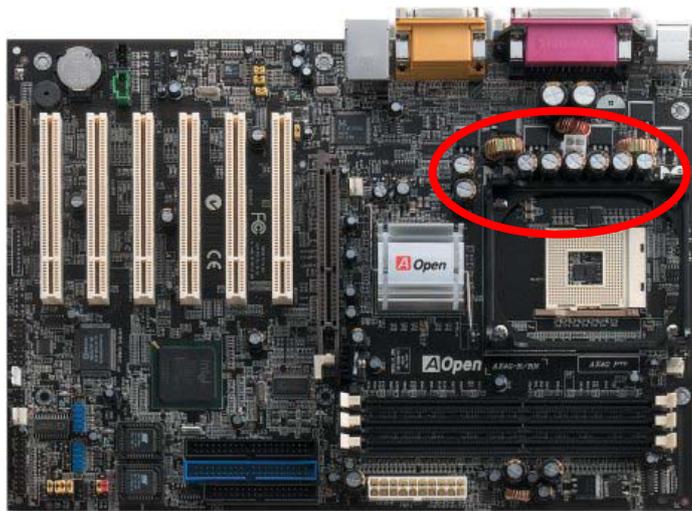


リセット可能なヒューズ

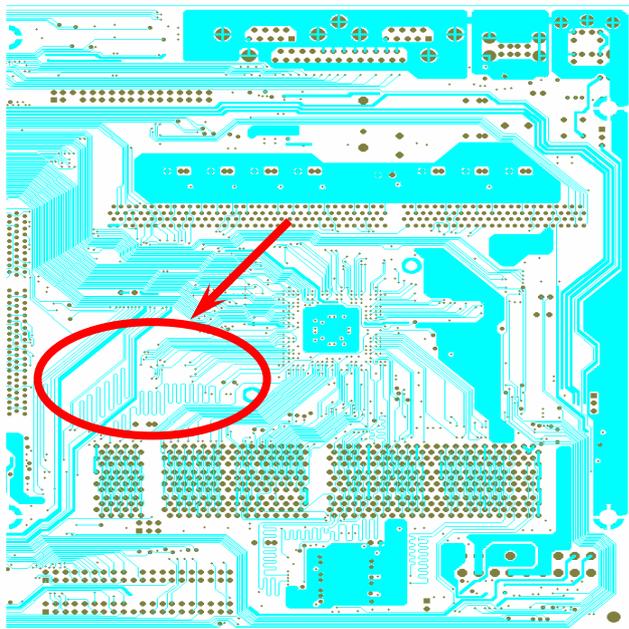
3300 μ F 低 ESR コンデンサー

高周波数動作中の低 ESR コンデンサー (低等価直列抵抗付き)の品質は CPU パワーの安定性の鍵を握ります。これらのコンデンサーの設置場所は 1 つのノウハウであり、経験と精密な計算が要求されます。

加えて、AX4G Pro マザーボードには通常の容量(1000 μ F 及び 1500 μ F)をはるかに上回る 3300 μ F コンデンサーが使用され、より安定した CPU パワーを保証します。



レイアウト (周波数分離ウォール)

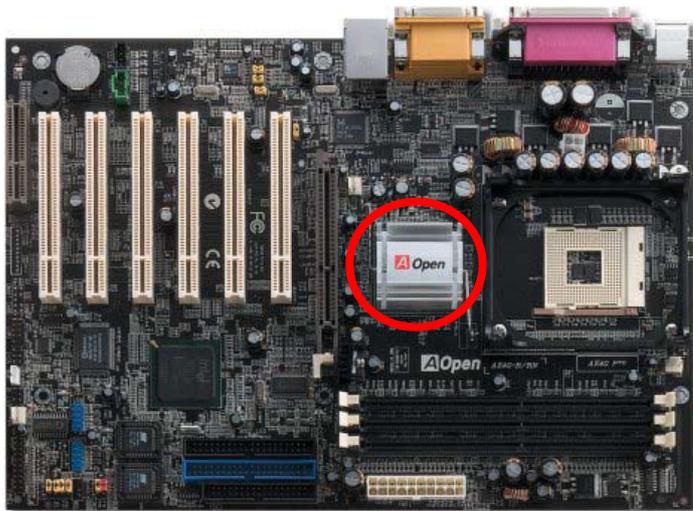


高周波時の操作、特にオーバークロックの場合においては、チップセットと CPU の安定動作を決定付ける最も重要な要素となるのはレイアウトです。このマザーボードでは”周波数分離ウォール (Frequency Isolation Wall)”と呼ばれる AOpen 独自の設計が採用されています。マザーボードの各主要領域を、動作時の各周波数が同じか類似している範囲に区別することで、互いの動作やモードのクロストークや干渉が生じにくいようになっています。トレース長および経路は注意深く計算される必要があります。例えばクロックのトレースは同一長となるよう(必ずしも最短ではない)にすることで、クロックスキューは数ピコ秒(1/10¹² Sec)以内に抑えられています。

注意: この図は参考用のみですので、当マザーボードと確実に一致するわけではありません。

大型アルミニウム製ヒートシンク

CPU およびチップセットの冷却はシステムの信頼性にとって重要です。アルミニウム製ヒートシンクにより、特にオーバークロック時により効率のよい冷却効果が実現します。





Open JukeBox プレイヤー



ここに全く新しい、かつ強力なインターフェース Open JukeBox を発表できるのは大きな喜びです。コストを全くかけずにあなたの PC をファッションナブルな CD プレイヤーに変身させることができます! この最新の Open JukeBox マザーボードは Windows オペレーティングシステムを起動せずに、直接 PC 上の CD プレイヤーを操作できることを目標にしています。



Open JukeBox の操作

Open JukeBox プレイヤーは他の CD プレイヤーと全く同じです。キーボード上の任意のキーを押すだけで既存の CD プレイヤーと同じように操作できることにお気付きになるでしょう。以下が対応するボタンの機能です。



- Power:** “O”キーを押すと Windows オペレーティングシステムを起動せずに直接システムの電源が切れます。
- Boot:** “B”キーを押すと Windows オペレーティングシステムが起動します。
- Play:** “A” キーを押すと CD の再生を開始します。
- Stop:** “S” キーを押すと再生を停止します。
- Pause:** “P”キーを押すと再生を一時停止します。
- Eject:** “E”CD をイジェクトします。
- Repeat:** “R”キーを押すとリピートモードになります。
- Volume +/-:** “+”か“-”キーを押すとボリュームを調節できます。
- Rewind/Forward ← / →:**方向キーを押すと音楽を戻したり進めたりできます。

注意: いくつかの最新 Windows システムは IDE バスを介した “Digital Audio” をサポートしています。しかしながら、BIOS によって駆動される Open Jukebox プレイヤーを使用するためには、オーディオケーブルをマザーボード上の CD-IN コネクタに必ず接続しなければなりません。

BIOS の Open JukeBox 設定

以下の通り Open JukeBox の起動に関して 3 つの選択肢があります。



Auto: 初期設定値は“Auto”です。システムの電源を入れる度に Open JukeBox は CD プレイヤーをチェックします。Open JukeBox プレイヤーは CD プレイヤー上に音楽 CD を検出すると自動的に起動します。

Press Insert Key: この項目を選択すると、BIOS POST 中にメッセージが表示され、キーボード上の“Ins” キーを押して Open JukeBox プレイヤーを起動するように促します。押さなければシステムは Windows を起動します。

CD Player: この項目を選択すると電源を入れる度に、システムは Open JukeBox プレイヤーを起動します。しかし、“B”キーを押すと Windows が起動します。

Your Open JukeBox EzSkin



上記の強力な機能の外に、Open JukeBox プレイヤーは”スキン”を変更する機能を持っています。AOpen のウェブサイトからスキンファイルを好きなだけダウンロードし、同じく弊社のウェブサイトからダウンロードできるユーティリティ”EzSkin”を使っていつでもスキンを変更できます。さらに、ご自分の革新的なアイデアでスキンをデザインし、弊社のウェブサイトにアップロードして頂ければ、世界中のユーザーと共有できます。さらに詳しい技術的な情報は弊社のウェブサイト [\(http://www.aopen.co.jp/products/mb/\)](http://www.aopen.co.jp/products/mb/) をご覧ください。



Vivid BIOS テクノロジー



Vivid BIOS

地味で変更の効かない POST スクリーンに飽き飽きしておられませんか？POST スクリーンは堅苦しくてつまらないという考えを捨てて、AOpen の開発した VividBIOS で全く新しい生き生きとしたカラフルな POST スクリーンを体験して下さい！

POST 中に画面全体を占有してしまいテキスト情報を隠してしまうような既存のグラフィック POST スクリーンとは異なり、AOpen VividBIOS はグラフィックスとテキストを別々に取り扱い、POST 中にそれぞれを同時に処理します。革新的な設計により、VividBIOS は POST 中の重要な情報を逃すことなく、美しく滑らかな 256 色の POST スクリーンを可能にしました。

加えて、BIOS ROM のメモリ空間に限りがあることは大きな問題です。既存のほとんどの BIOS が空間をより消費する非圧縮のビットマップフォーマットしか表示できないのに対し、AOpen は BIOS を次の世代へとチューンアップし、よりファイルサイズが小さい GIF フォーマットそしてさらに GIF アニメーションを認識するようにしました。



Vivid BIOS は Open JukeBox CD と基本的な技術を共有し、同じ EzSkin ユーティリティを使用して Vivid BIOS スクリーンや Open JukeBox スキンダウンロードすることが出来ます。弊社の BIOS ダウンロードページ上

(<http://www.aopen.co.jp/tech/download/mbbios/default.htm>;) に表記されたモデル名の横に、この小さなロゴ  が表示されていたなら、お手元のモデルがこの革新的な機能をサポートしていることを保証しています！

ドライバ及びユーティリティ

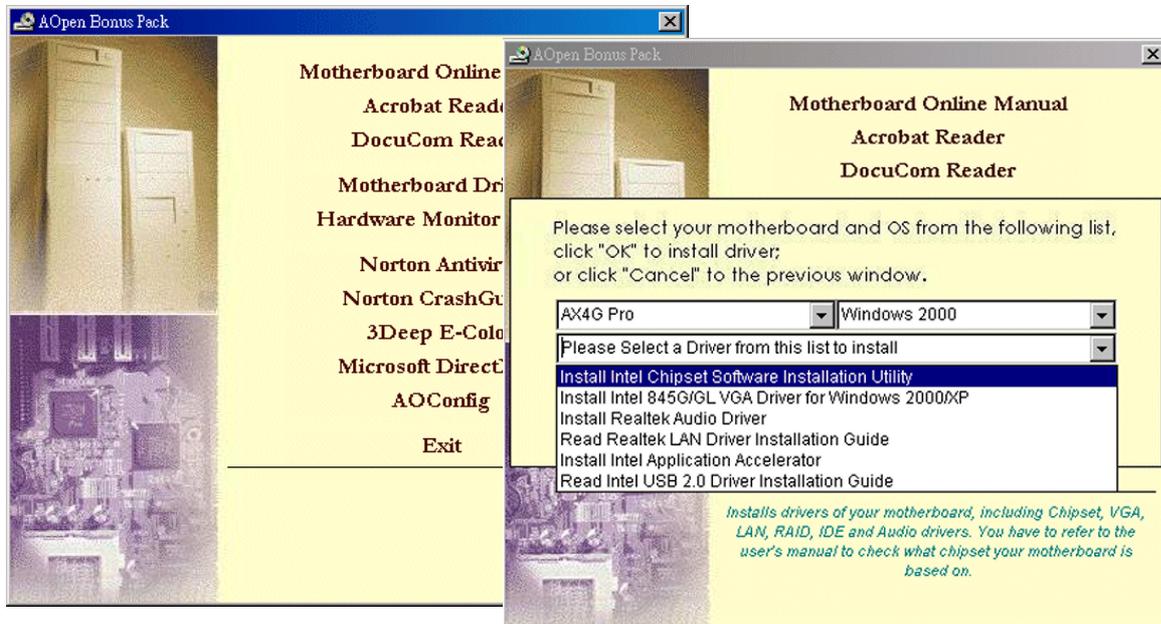
[AOpen Bonus CD ディスク](#)にはマザーボードのドライバとユーティリティが収録されています。システム起動にこれら全てをインストールする必要はありません。ただし、ハードウェアのインストール後、ドライバやユーティリティのインストール以前に、まず Windows 98 等の基本ソフトをインストールする必要があります。ご使用になる基本ソフトのインストールガイドをご覧ください。



注意: 推薦の手順に従って、[Windows 95](#) 及び Windows 98 をインストールしてください。

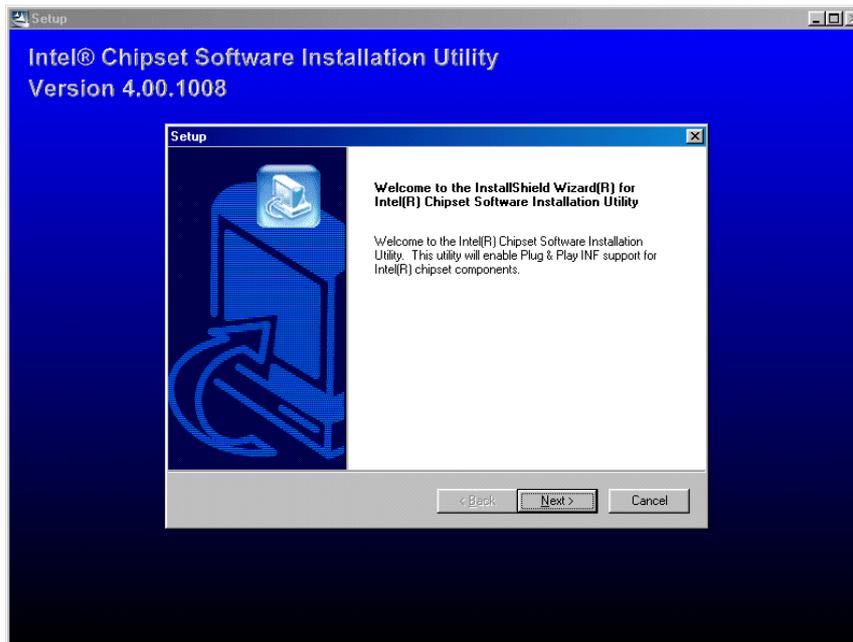
Bonus CD ディスクからのオートランメニュー

Bonus CD ディスクのオートラン機能を利用できます。ユーティリティとドライバを指定し、モデル名を選んでください。



Intel®チップセットソフトウェアインストールユーティリティのインストール

Bonus Pack CD ディスクのオートランメニューから Intel INF アップデートユーティリティをインストールすることで“?”マークをなくすことができます。



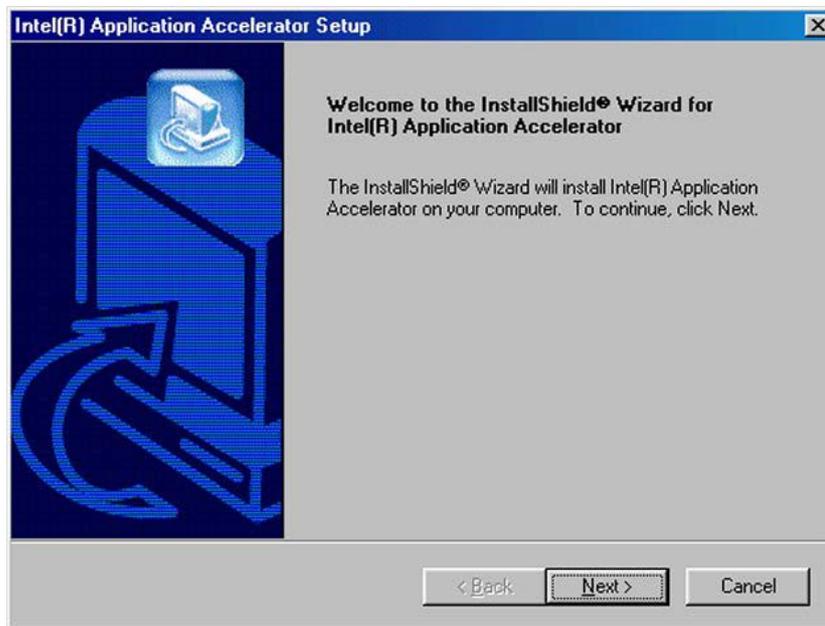
Intel Brookdale-G VGA ドライバのインストール

Intel VGA ドライバをインストールすることで、チップセットのグラフィックス機能を最大限引き出すことができます。このドライバは [AOpen Bonus Pack](#) CD ディスクから見つげられます。



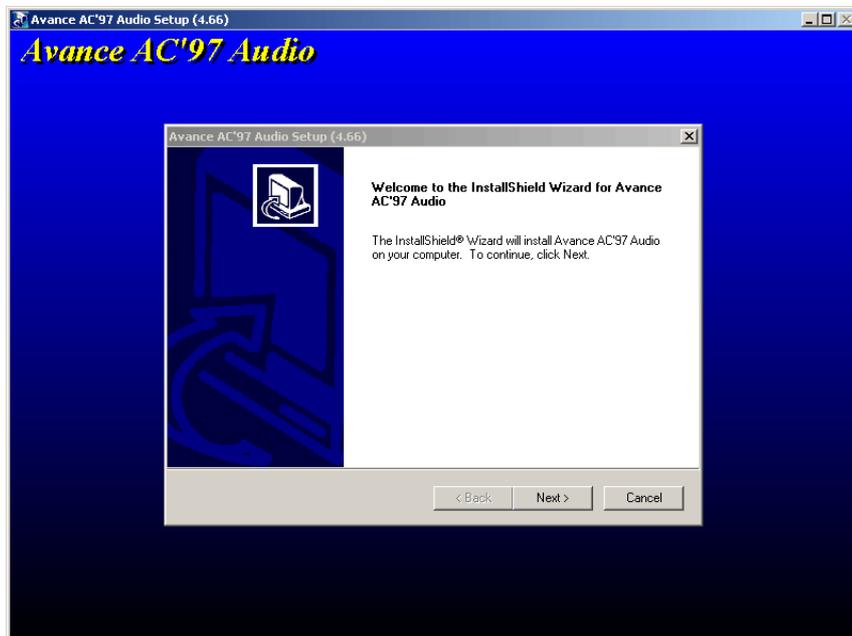
Intel IAA ドライバのインストール

Intel IAA ドライバをインストールすることで、ソフトウェアアプリケーションの性能を向上し、コンピュータの起動時間を短縮させることができます。このドライバは[AOpen Bonus Pack](#) CD ディスクから見つげられます。



オンボードサウンドドライバのインストール

このマザーボードには[AC97 サウンド CODEC](#) が装備されています。オーディオドライバは Bonus Pack CD ディスクオートランメニューから見つけられます。



LAN ドライバーのインストール

下記の手順に従って、Windows95/98、Windows NT 及び Windows2000/XP において、RealTek 8100BL PCI ファーストイーサネットアダプタの LAN ドライバをインストールすることができます。

Microsoft Windows 95 環境でのドライバのインストール手順：

1. インストールするドライバを尋ねられたなら、「ハードウェア製造元の提供するディスクを使用」を選びます。
2. セットアップ用ファイルのフルパス名を指定します。
[CD-ROM]:Driver\LAN\RTL8100\Windows\Win95\WIN95A (Windows 95 および Win95A 用) または
[CD-ROM]:Driver\LAN\RTL8100\Windows\Win95 (Windows 95 OSR2 用)です。
3. 指示に従って Windows 95 システムディスクを使用し、セットアップを完了させます。
4. Windows 95 が残りのインストールを自動的にを行いますから、インストール終了後にシステムを再起動させます。

Win98/Win98 SE/Windows2000/Windows ME 環境でのドライバのインストール手順：

1. インストールするドライバを尋ねられたなら、「ハードウェア製造元の提供するディスクを使用」を選びます。
2. セットアップ用ファイルのフルパス名を指定します。
[CD-ROM]:Driver\LAN\RTL8100\Windows\WIN98 (Windows 98/98 SE 用) または
[CD-ROM]:Driver\LAN\RTL8100\Windows\WIN2000 (Windows 2000 用) または
[CD-ROM]:Driver\LAN\RTL8100\Windows\Windows ME (Windows ME 用)です。
3. 指示に従ってシステムディスク (Win98/Win98 SE/Windows2000/Windows ME) を使用し、セットアップを完了させます。
4. Win98/Win98 SE/Windows2000/Windows ME が残りのインストールを自動的にを行いますから、インストール終了後にシステムを再起動させます。

USB2.0 ドライバのインストール

* Windows 2000 システム環境におけるインストールガイド

Windows 2000 システム環境におけるドライバのインストール手順

USB 2.0 コントローラを有効にし、システムを再起動したら、Windows 2000 セットアップは「新しいハードウェアの検出ウィザード」を表示します。Windows 2000 において、「Universal Serial Bus (USB) Controller」は表示されます。

1. 「デバイスに最適なドライバを検索する (推奨)」を選択し、「次へ」をクリックします。
2. 「場所を指定」を選択し、「次へ」をクリックします。
3. CD-ROM ドライブに Bonus CD を挿入します。
4. 表示されたテキストボックスに "[CD-ROM]:¥Driver¥Intel¥USB2.0" と入力し、「OK」をクリックします。
5. 「次へ」をクリックしたら、「Intel (R) USB Enhanced Host Controller (ICH4)」を発見しましたとのメッセージが表示されます。
6. 「次へ」をクリックし、そして「完了」をクリックします。

Windows 2000 におけるドライバインストールの確認方法

1. Windows 2000 より、「マイコンピュータ」から「コントロールパネル」を開き、「システム」アイコンをクリックします。
2. 「ハードウェア」タブを選び、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
3. 「Universal Serial Bus Controllers」の前にある「+」をクリックします。「Intel (R) USB Enhanced Host Controller (ICH4)」が表示されるはずですが。

* Windows XP システム環境におけるインストールガイド

Windows XP システム環境におけるドライバのインストール手順

USB 2.0 を有効にしたら、Windows XP セットアップは「新しいハードウェアの検出ウィザード」を表示します。Windows XP において、「Universal Serial Bus (USB) Controller」は表示されます。

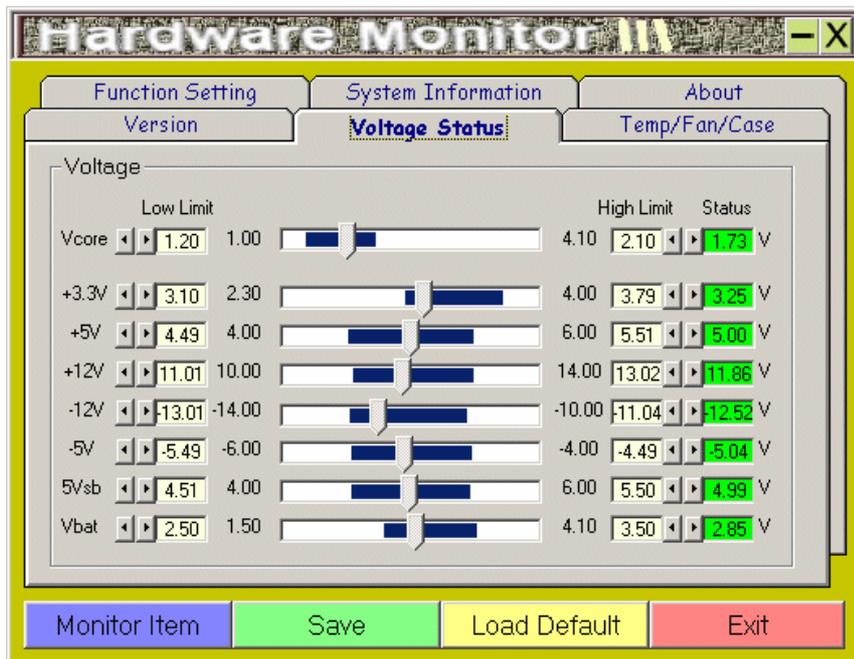
1. 「次へ」をクリックし、次のダイアログボックスから「一覧または特定の場所からインストールする (詳細)」を選択し、「次へ」をクリックします。
2. 次のダイアログボックスから、「次の場所を含める」を選択します。
3. CD-ROM ドライブに Bonus CD を挿入します。
4. 表示されたテキストボックスに "[CD-ROM]:\Driver\Intel\USB2.0" と入力します。
5. 「次へ」をクリックしたら、" Intel (R) USB Enhanced Host Controller (ICH4)" を発見しましたとのメッセージが表示されます。
6. 新しいハードウェアの検出ウィザードより USB ドライブのインストールが完了したら、「完了」をクリックします。

Windows XP におけるドライバインストールの確認方法

1. Windows XP より、「マイコンピュータ」から「コントロールパネル」を開きます。
2. 「パフォーマンス&メンテナンス」をクリックします。
3. 「システム」アイコンをクリックします。
4. 「ハードウェア」タブを選び、「デバイスマネージャ」タブをクリックします。
5. 「Universal Serial Bus Controllers」の前にある「+」をクリックします。「Intel (R) USB Enhanced Host Controller (ICH4)」が表示されるはずですが。

ハードウェアモニタユーティリティのインストール

ハードウェアモニタユーティリティをインストールすることで、CPU 温度、ファン速度、システム電圧のモニタが可能です。ハードウェアモニタ機能は、BIOSおよびユーティリティソフトウェアにより自動的に導入されます。ハードウェアのインストールは不要です。



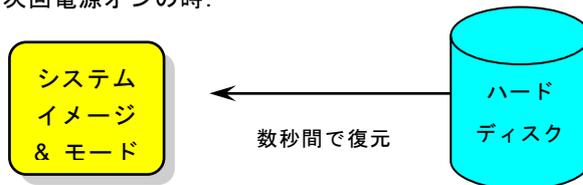
ACPI ハードディスクサスペンド

ACPI ハードディスクサスペンドは基本的には **Windows** の基本ソフトで管理されます。これで現在の作業 (システムモード、メモリ、画像イメージ)がハードディスクに保存され、システムは完全にオフにできます。次回電源をオンにした時は **Windows** やアプリケーションの起動をせずに先回の作業がハードディスクから再度読み込まれ数秒間で復元されます。ご使用のメモリが通常の **64MB** であれば、メモリイメージを保存するため **64MB** のハードディスク空き領域が必要です。

サスペンドに入る時:



次回電源オンの時:



必要なシステム環境

1. **AOZVHDD.EXE 1.30b** またはそれ以降のバージョン
2. **config.sys** 及び **autoexec.bat** を削除

新システムにおける Windows 98 の初回インストール

1. "**Setup.exe /p j**"を実行して、Windows 98 をインストールします。
2. Windows 98 のインストール完了後、**コントロールパネル>電源の管理**を開きます。
 - a. **電源の設定 >システムスタンバイ**を"なし"に設定します。
 - b. "ハイバネーション"をクリックし、"ハイバネーションサポートを有効にする"を指定、"適用"をクリックします。
 - c. "詳細設定"タブをクリックしたら、"パワーボタン"上に"ハイバネーション"が表示されます。このオプションは上記のステップ b が実行されたあとでのみ表示され、未実行であれば、"スタンバイ"および"シャットダウン"だけが表示されます。"ハイバネーション"を選び、"適用"をクリックします。
3. DOS を起動し、AOZVHDD ユーティリティを実行します。
 - a. ディスク全体が Win 98 システムで使用される (FAT 16 又は FAT 32)場合は、"**aozvhdd /c /file**"を実行します。また、ディスクに十分な空きスペースが必要である点をお忘れなくください。例えば、64 MB DRAM 及び 16 MB VGA カードをインストールする場合、システムには最小 80 MB の空きスペースが必要です。ユーティリティは空きスペースを自動的に探します。
 - b. Win 98 用にパーティションを切っている場合、"**aozvhdd /c /partition**"を実行します。当然ですが、システムには未フォーマットの空きパーティションが必要です。
4. システムを再起動します。
5. これで ACPI ハードディスクサスペンドが使用可能になりました。"**スタート > シャットダウン>スタンバイ**"で画面は自動的にオフになります。システムがメモリ内容をハードディスクに保存するには 1 分程かかります。メモリサイズが大きくなるとこれに要する時間が長くなります。

APM から ACPI への変更 (Windows 98 のみ)

1. "Regedit.exe"を実行します。

a. 以下のパスをたどります。

HKEY_LOCAL_MACHINE

SOFTWARE

MICROSOFT

WINDOWS

CURRENT VERSION

DETECT

b. "バイナリの追加"を選び、"**ACPIOPTION**"と名前を付けます。

c. 右クリックして**変更**を選び、"0000"の後に"01"を付けて"0000 01"とします。

d. 変更を保存します。

2. コントロールパネルから"ハードウェアの追加"を選びます。Windows 98 に新たなハードウェアを自動検出させます。(この際 "**ACPI BIOS**"が検出され、"**Plug and Play BIOS**"が削除されます。)

3. システムを再起動します。

4. DOS を起動し、"AOZVHDD.EXE /C /File"を実行します。

ACPI から APM への変更

1. "Regedit.exe"を実行します。

a. 以下のパスをたどります。

HKEY_LOCAL_MACHINE

SOFTWARE

MICROSOFT

WINDOWS

CURRENT VERSION

DETECT

ACPI OPTION

b. 右クリックして**変更**を選び、"0000"の後に"02"を付けて"0000 02"とします。

ヒント: "02"は、Windows 98 が ACPI を検出したものの、ACPI 機能はオフになっていることの目印です。

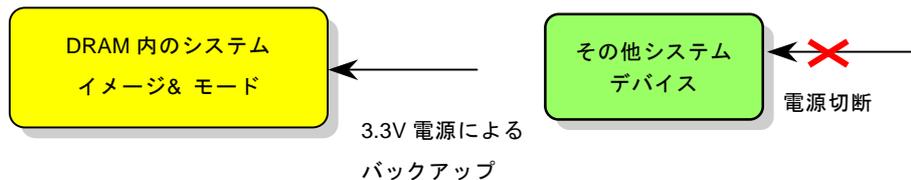
c. 変更を保存します。

2. コントロールパネルから"ハードウェアの追加"を選びます。Windows 98 に新たなハードウェアを自動検出させます。(この際 "**Plug and Play BIOS**"が検出され、"**ACPI BIOS**"が削除されます。)
3. システムを再起動します。
4. "新たなハードウェアの追加"を再度開くと、"**Advanced Power Management Resource**"が検出されます。
5. "OK"をクリックします。

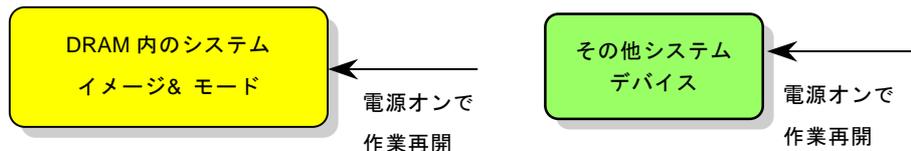
ACPI サスペンドトゥーRAM (STR)

このマザーボードはACPIサスペンドトゥーRAM機能をサポートしています。この機能により、Windows 98 やアプリケーションの再起動せずに、先回の作業を DRAM から再現することが可能です。DRAM へのサスペンドは作業内容をシステムメモリに保存するので、ハードディスクサスペンドより高速ですが、DRAM への電力供給が必要である面、電力消費がないハードディスクサスペンドとは異なります。

サスペンドに入る時:



次回パワーオンの時:



ACPI サスペンドトゥーDRAM を使用可能にするには、以下の手順に従います。

必要なシステム環境

1. ACPI 対応の基本ソフトが必要です。現在 Windows 95 及び Windows NT 以外の基本ソフトは ACPI をサポートしています。
2. Intel[®] チップセットソフトウェアインストレーションユーティリティが正しくインストールされている必要があります。

手順

1. 以下の BIOS 設定を変更します。

BIOS Setup > Power Management Setup > ACPI Function : Enabled (オン)

BIOS Setup > Power Management Setup > ACPI Suspend Type :S3.

2. コントロールパネル>電源の管理とたどります。“パワーボタン”を“スタンバイ”に設定します。
3. パワーボタンまたはスタンバイボタンを押すとシステムが復帰します。

AWARD BIOS

システムパラメータの変更は[BIOS](#) セットアップメニューから行えます。このメニューによりシステムパラメータを設定し、128 バイトの CMOS 領域 (通常, RTC チップの中か, またはメインチップセットの中)に保存できます。

マザーボード上の[フラッシュ ROM](#)にインストールされている AwardBIOS™は業界規格 BIOS のカスタムバージョンです。BIOS はハードディスクドライブや、シリアル・パラレルポートなどの標準的な装置の基本的な入出力機能を管理する肝心なプログラムです。

AX4G Pro の BIOS 設定の大部分は AOpen の R&D エンジニアリングチームによって最適化されています。しかし、システム全体に適合するよう、BIOS のデフォルト設定だけでチップセット機能を細部に至るまで調整するのは不可能です。その故に、この章の以下の部分には、セットアップを利用したシステムの設定方法が説明されています。

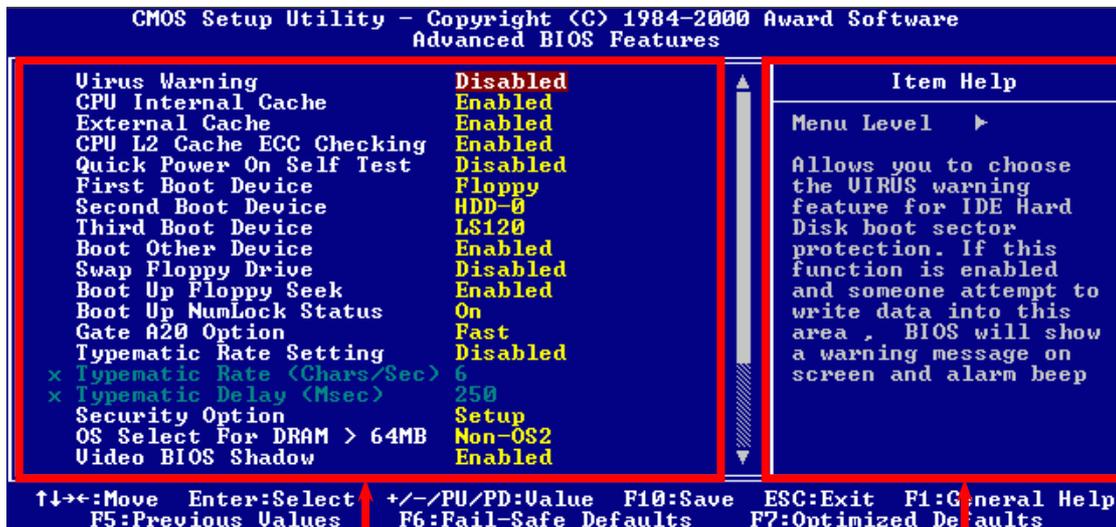
現在、POST 中にシステムが起動に失敗した場合に二種類のビーブ音があります。まず、長いビーブ音 1 回に続き短いビーブ音が 2 回鳴る場合は、ディスプレイエラーが生じ、BIOS 関連情報が一切表示されていないことを示します。次に、長いビーブ音が繰り返される場合は、メモリにエラーが発生することを示します。ビーブ音の違いから示唆されたエラーを調べればいいです。

[BIOS セットアップメニューを表示するには](#)、[POST \(Power-On Self Test : 電源投入時の自己診断\)](#) 実行中にキーを押してください。

注意: BIOS コードはマザーボードの設計の中でも変更が繰り返される部分ですので、このマニュアルで説明されている BIOS 情報は、お持ちのマザーボードに実装されている BIOS とは多少異なる場合があります。

BIOS 機能の説明…

AOpen はユーザーによりフレンドリーなコンピュータシステム環境を提供するよう努力しています。このたび、弊社は BIOS セットアッププログラムの説明を全て BIOS フラッシュ ROM に含めました。BIOS セットアッププログラムの機能を選択すると、画面右側に機能の説明がポップアップ表示されます。それで BIOS 設定変更の際マニュアルを見る必要はなくなりました。



メニュー項目選択ウィンドウ

項目の機能説明ウィンドウ



Award™ BIOS セットアッププログラムの使用方法

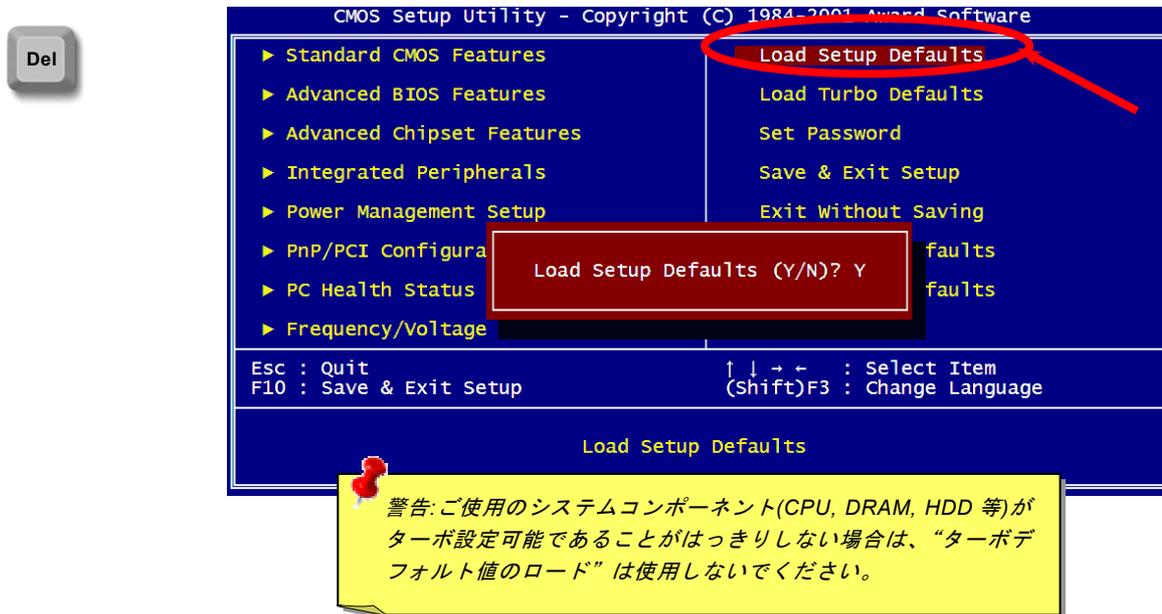
一般には、選択する項目を矢印キーでハイライト表示させ、<Enter>キーで選択、<Page Up>および<Page Down>キーで設定値を変更します。また<F1>キーでヘルプ表示、<Esc>キーで Award™ BIOS セットアッププログラムを終了できます。下表には Award™ BIOS セットアッププログラム使用時のキーボード機能が説明されています。さらに全ての AOpen マザーボード製品では BIOS セットアッププログラムに特別な機能が加わっています。それは<F3>キーで表示する言語の指定が可能である点です。

キー	説明
Page Up または+	次の設定値に変更または設定値を増加させる
Page Down または-	前の設定値に変更または設定値を減少させる
Enter	項目の選択
Esc	1. メインメニュー内: 変更を保存せずに中止 2. サブメニュー内: サブメニューからメインメニューに戻る
↑	前の項目をハイライト表示する
↓	次の項目をハイライト表示する
←	メニュー内のハイライト部分を左に移動
→	メニュー内のハイライト部分を右に移動
F1	メニューや項目のヘルプを表示する
F3	メニュー言語の変更
F5	CMOS から前回の設定値をロード

キー	説明
F6	CMOS からフェイルセーフ設定値をロード。
F7	CMOS からターボ設定値をロード。
F10	変更を保存してセットアップを終了

BIOS セットアップの起動方法

ジャンパー設定およびケーブル接続が正しく行われたなら準備完了です。システムに電源を入れて、[POST \(Power-On Self Test : 電源投入時の自己診断\)](#) 実行中にキーを押すと、BIOS セットアップに移行します。最適なパフォーマンスを実現するには "Load Setup Defaults (デフォルト値のロード) "を選択してください。

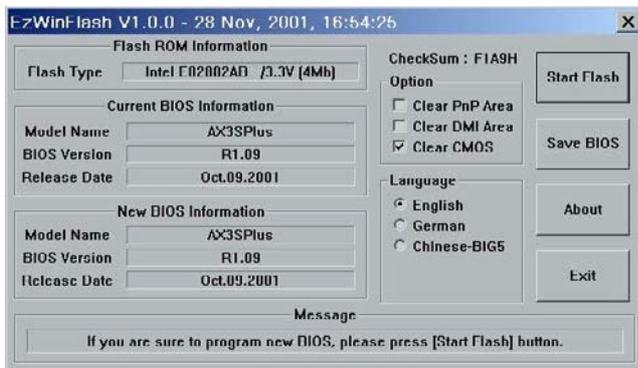


Windows 環境における BIOS のアップグレード



AOpen は優秀な R&D 能力により開発された斬新な BIOS フラッシュウィザード ---- EZWinFlash を提供します。ユーザーの便宜を図るため、EZWinFlash は BIOS バイナリコードとフラッシュモジュールを統合していますので、ウェブサイトからユーティリティをダウンロードし、クリックするだけでフラッシュ過程を自動的に完了してくれます。EZWinFlash はご使用のマザーボードと BIOS バージョンを確認しますので、可能なフラッシュエラーを防ぎます。さらに、EZWinFlash は既にご使用になりそうなあらゆる windows プラットフォームを考慮に入れましたので、Windows 95/98 から 98SE/ME、NT4.0/2000 または最新の Windows XP まで全部使用可能です。

その同時に、より操作しやすい環境を提供するため、AOpen EZWinFlash は多言語機能の設計を取り入れて、BIOS 設定の変更によりしやすい方法を提供します。



警告：マザーボードのフラッシュ操作をすることには、BIOS フラッシュエラーの可能性が伴うことをご了承ください。マザーボードが正常に安定動作しており、最新の BIOS バージョンで大きなバグフィックスがなされていない場合は、BIOS のアップデートは行わないようお勧めします。

アップグレードを実行する際には、マザーボードモデルに適した正しい BIOS バージョンを必ず使用するようにしてください。

注意：上の BIOS 図に記載されているモデルネームは参考用のみです。当マザーボードと一致するわけではありません。

下記の手順に従って、EZWinFlash で BIOS のアップグレードを完了してください。アップグレードを開始する前に、必ず全てのアプリケーションを終了してください。

1. AOpen のウェブサイト(<http://www.aopen.com>)から最新の BIOS パッケージ zip ファイルをダウンロードします。
2. Windows において、WinZip (<http://www.winzip.com>)で BIOS パッケージ(例えば、WAX4GP102.ZIP)を解凍します。
3. 解凍したファイルをフォルダに保存します。たとえば、WAX4GP102.EXE 及び WAX4GP102.BIN.です。
4. WAX4GP102.EXE をダブルクリックしたら、EZWinFlash はご使用のマザーボードのモデルネーム及び BIOS バージョンを検出します。BIOS が間違ったら、フラッシュ操作を続行することはできません。
5. 主要メニューから好みの言語を選択し、[フラッシュ開始]をクリックしたら BIOS アップグレードが開始します。
6. EZWinFlash はアップグレード作業を自動的に完了します。完了後、ポップアップダイアログボックスからコンピュータを再起動するよう聞いてきますので、[はい]をクリックして Windows を再起動します。
7. POST 時にキーを押して[BIOS セットアップ](#)を起動します。"Load Setup Defaults"を選び、"Save & Exit Setup (保存して終了) します。これで完了です。

フラッシュ処理の際に、絶対にアプリケーションを実行したり電源を切ったりしないで下さい!!



警告:フラッシュ時には以前の BIOS 設定およびプラグアンドプレイ情報は完全に置き換えられます。システムが以前のように動作するには、BIOS の再設定が必要となります。

オーバークロック

マザーボード業界での先進メーカーである AOpen は常にお客様のご要望に耳を傾け、ユーザー皆様の様々なご要求に合った製品を開発してまいりました。マザーボードの設計の際の私たちの目標は、信頼性、互換性、先進テクノロジー、ユーザーフレンドリーな機能です。これら設計上の分野の一方には、“オーバークロッカー”と呼ばれるシステム性能をオーバークロックにより限界まで引き出すよう努めるパワーユーザーが存在します。

このセクションはオーバークロッカーの皆さんを対象にしています。

この高性能マザーボードは最大 400MHz の CPU バスクロックをサポートします。しかしこれはさらに将来の CPU バスクロック用に 248MHz まで使用可能なように設計されています。弊社ラボのテスト結果によれば、高品質のコンポーネントと適切な設定により 170MHz が到達可能であることを示しています。その上、CPU クロックレシオは最大 17 倍で、これは殆ど全ての Pentium® 4 CPU に対してオーバークロックの自由度を提供するものです。参考までに 133MHz バスクロックへとオーバークロックした際の設定値を紹介します。

これはオーバークロック動作を保証するものではありません。☺

ヒント: オーバークロックによる発熱問題も考慮に入れてください。冷却ファンとヒートシンクが CPU のオーバークロックにより生じる余分の熱を放散する能力があるか確認してください。

警告: この製品は CPU およびチップセットベンダーの設計ガイドラインにしたがって製造されています。製品仕様を超える設定は薦められている範囲外であり、ユーザーはシステムや重要なデータの損傷などのリスクを個人で負わなければなりません。オーバークロックの前に各コンポーネント特に CPU、メモリ、ハードディスク、AGP VGA カード等が通常以外の設定に耐えるかどうかを確認してください。

VGA カード及びハードディスク

VGA およびハードディスクはオーバークロック時に重要なコンポーネントです。以下のリストは弊社ラボでテスト済みの成功例です。上述のリスト中におけるコンポーネントで再度オーバークロックに成功できるかどうかは AOpen では保証いたしかねますのでご注意ください。弊社の公式ウェブサイトまで使用可能なベンダーリスト(AVL)をご確認ください。

VGA: <http://www.aopen.com.tw/tech/report/overclk/mb/vga-oc.htm>

HDD: <http://www.aopen.com.tw/tech/report/overclk/mb/hdd-oc.htm>

用語解説

AC97 サウンドコーデック

基本的には AC97 規格はサウンドおよびモデム回路を、デジタルプロセッサおよびアナログ入出力用の **CODEC** の 2 つに分け、AC97 リンクバスでつないだものです。デジタルプロセッサはマザーボードのメインチップセットに組み込めるので、サウンドとモデムのオンボードのコストを軽減することができます。

ACPI (アドバンスド コンフィギュレーション&パワー インタフェース)

ACPI は PC97 (1997) のパワーマネジメント規格です。これはオペレーションシステムへのパワーマネジメントを **BIOS** をバイパスして直接制御することで、より効果的な省電力を行うものです。チップセットまたはスーパー I/O チップは **Windows 98** 等のオペレーションシステムに標準レジスタインタフェースを提供する必要があります。この点は **PnP** レジスタインタフェースと少し似ています。ACPI によりパワーモード変更時の ATX 一時ソフトパワースイッチが設定されます。

AGP (アクセラレーテッドグラフィックポート)

AGP は高性能 3D グラフィックスを対象としたバスインタフェースです。AGP はメモリへの読み書き作業、1 つのマスター、1 つのスレーブのみをサポートします。AGP は 66MHz クロックの立ち上がりおよび下降の両方を利用し、2X AGP ではデータ転送速度は $66\text{MHz} \times 4 \text{ バイト} \times 2 = 528\text{MB/s}$ となります。AGP は現在 4X モードに移行中で、この場合は $66\text{MHz} \times 4 \text{ バイト} \times 4 = 1056\text{MB/s}$ となります。AOpen は 1999 年 10 月から AX6C (Intel 820) および MX64/AX64 (VIA 694x) により 4X AGP マザーボードをサポートしている初のメーカーです。

AMR (オーディオ/モデムライザー)

AC97 サウンドとモデムのソリューションである [CODEC](#) 回路はマザーボード上または AMR コネクタでマザーボードに接続したライザーカード (AMR カード) 上に配置することが可能です。

AOpen Bonus Pack CD

AOpen マザーボード製品に付属のディスクで、マザーボード各種ドライバ、[PDF](#) 形式のオンラインマニュアル表示用の Acrobat Reader、その他役立つユーティリティが収録されています。

APM (アドバンスドパワーマネジメント)

[ACPI](#) とは異なり、BIOS が APM のパワーマネジメント機能の大部分を制御しています。AOpen ハードディスクサスペンドが APM パワーマネジメントの典型的な例です。

ATA (AT アタッチメント)

ATA はディスクインタフェースの規格です。80 年代に、ソフトウェアおよびハードウェアメーカー多数により ATA 規格が確立されました。AT とは International Business Machines Corp. (IBM) のパソコン/AT のバス構造のことです。

ATA/66

ATA/66 はクロック立ち上がりと下降時の両方を利用し、[UDMA/33](#)の転送速度の 2 倍となります。データ転送速度は PIO mode 4 あるいは DMA mode 2 の 4 倍で、16.6MB/s x 4 = 66MB/s です。ATA/66 を使用するには、ATA/66 IDE 専用ケーブルが必要です。

ATA/100

ATA/100 は現在発展中の IDE 規格です。ATA/100 も [ATA/66](#)と同様クロックの立ち上がりと降下時を利用しますが、クロックサイクルタイムは 40ns に短縮されています。それで、データ転送速度は $(1/40\text{ns}) \times 2 \text{ バイト} \times 2 = 100\text{MB/s}$ となります。ATA/100 を使用するには ATA/66 と同様、専用の 80 芯線 IDE ケーブルが必要です。

ATA/133

ATA/133 は現在発展中の IDE 規格です。ATA/133 も [ATA/66](#)と同様、クロックの立ち上がりと立ち下りを利用しますが、クロックサイクルの時間は 30ns に短縮されています。それで、データ転送速度は $(1/30\text{ns}) \times 2 \text{ バイト} \times 2 = 133\text{MB/s}$ となります。ATA/133 を使用するには ATA/66 と同様、専用の 80 芯線 IDE ケーブルが必要です。

BIOS (基本入出カシステム)

BIOS は[EPROM](#)または[フラッシュ ROM](#)に常駐する一連のアセンブリルーチンおよびプログラムです。BIOS はマザーボード上の入出力機器およびその他ハードウェア機器を制御します。一般には、ハードウェアに依存しない汎用性を持たせるため、オペレーションシステムおよびドライバは直接ハードウェア機器ではなく BIOS にアクセスするようになっています。

Bus Master IDE (DMA モード)

従来の PIO (プログラマブル I/O) IDE では、機械的な操作待ちを含めた全ての動作を CPU から管理することが必要でした。CPU 負荷を軽減するため、バスマスターIDE 機器はメモリ間でのデータのやり取りを CPU を介さずに行うことで、データがメモリと IDE 機器間で転送中にも CPU の動作を遅くさせません。バスマスターIDE モードをサポートするには、バスマスターIDE ドライバおよびバスマスターIDE ハードディスクドライブが必要です。

CNR (コミュニケーション及びネットワークライザー)

CNR 規格は、今日の「つながれた PC」に広く使用される LAN、ホームネットワーク、DSL、USB、無線、オーディオ、モデムサブシステムを柔軟かつ低コストで導入する機会を PC 業界に提供します。CNR は、OEM 各社、IHV カードメーカー、チップ供給メーカー、Microsoft によって支持されているオープンな工業規格です。

CODEC (符号化および復号化)

通常、CODEC はデジタル信号とアナログ信号相互の変換を行う回路を意味します。これは [AC97](#) サウンドおよびモデムソリューションの一部です。

DDR (ダブルデータレテッド) SDRAM

DDR SDRAM は既存の DRAM インフラ構造とテクノロジーを使用しながら、システムが 2 倍のデータ転送を行えるようにするもので設計及び採用が容易です。当初大容量メモリを要するサーバー及びワークステーションの完璧なソリューションとして打ち出された DDR は、その低コスト及び低電圧のため、高性能デスクトップ機、モバイル PC、低価格 PC さらにはインターネット機器やモバイル機器まで、PC 市場の各分野での理想的なソリューションとなっています。

DIMM (デュアルインライン メモリモジュール)

DIMM ソケットには合計 168 ピンがあり、64 ビットのデータをサポートします。これには片面と両面とがあり、PCB の各側のゴールドフィンガー信号が異なり、このためデュアルインラインと呼ばれます。ほとんどすべての DIMM は動作電圧 3.3V の [SDRAM](#) で構成されます。旧式の DIMM には [FPM/EDO](#) を使用する物があり、これは 5V でのみ動作します。これは SDRAM DIMM と混同できません。

DMA (ダイレクトメモリアクセス)

メモリ及び周辺機器間での通信用のチャンネルです。

ECC (エラーチェックおよび訂正)

ECC モードは 64 ビットのデータに対し、8 ECC ビットが必要です。メモリにアクセスされる度に、ECC ビットは特殊なアルゴリズムで更新、チェックされます。パリティモードでは単ビットエラーのみが検出可能であるのに対し、ECC アルゴリズムは複ビットエラーを検出、単ビットエラーを自動訂正する能力があります。

EDO (拡張データ出力)メモリ

EDO DRAM テクノロジーは FPM (ファストページモード)と酷似しています。保存準備動作を開始し 3 サイクルでメモリデータ出力する従来の FPM とは異なり、EDO DRAM はメモリデータを次のメモリアクセスサイクルまで保持する点で、パイプライン効果に類似し、1 クロックモードの節約となります。

EEPROM (電子式消去可能プログラマブル ROM)

これは E²PROM とも呼ばれます。EEPROM および [フラッシュ ROM](#) は共に電気信号で書き換えができますが、インタフェース技術は異なります。EEPROM のサイズはフラッシュ ROM より小型です。

EPROM (消去可能プログラマブル ROM)

従来のマザーボードでは BIOS コードは EPROM に保存されていました。EPROM は紫外線(UV)光によってのみ消去可能です。BIOS のアップグレードの際は、マザーボードから EPROM を外し、UV 光で消去、再度プログラムして、元に戻すことが必要でした。

EV6 バス

EV6 バスは Digital Equipment Corp.社製の Alpha プロセッサテクノロジーです。EV6 バスは DDR SDRAM や ATA/66 IDE バスと同様、データ転送にクロックの立ち上がりと降下両方を使用します。

EV6 バスクロック = CPU 外部バスクロック x 2.

例えば、200 MHz EV6 バスは実際には 100 MHz 外部バスクロックを使用しますが、200 MHz に相当するクロックとなります。

FCC DoC (Declaration of Conformity)

DoC は FCC EMI 規定の認証規格コンポーネントです。この規格により、シールドやハウジングなしで DoC ラベルを DIY コンポーネント (マザーボード等)に適用できます。

FC-PGA (フリップチップ-ピングリッド配列)

FC とはフリップチップの意味で、FC-PGA は Intel の Pentium III CPU 用の新しいパッケージです。これは SKT370 ソケットに差せますが、マザーボード側で 370 ソケットへの追加信号を送る必要があります。これはマザーボードに新たな設計が必要であることを意味します。Intel は FC-PGA 370 CPU を出荷し、slot1 CPU は徐々に減少するでしょう。

フラッシュ ROM

フラッシュ ROM は電気信号で再度プログラム可能です。BIOS はフラッシュユーティリティにより容易にアップグレードできますが、ウイルスに感染し易くもなります。新機能の増加により、BIOS のサイズは 64KB から 256KB (2M ビット) に拡大しました。AOpen AX5T は最初に 256KB (2M ビット) フラッシュ ROM を採用したマザーボードです。現在、フラッシュ ROM サイズは AX6C (Intel 820) および MX3W (Intel 810) マザーボードのように 4M ビットへと移行中です。AOpen 製マザーボードは EEPROM を使用することでジャンパーとバッテリー不要の設計を実現しています。

FSB (フロントサイドバス) クロック

FSB クロックとは CPU 外部バスクロックのことです。

CPU 内部クロック = CPU FSB クロック × CPU クロックレシオ

I²C Bus

[SMBus](#) をご覧ください。..

IEEE 1394

IEEE 1394 は Apple Computer がデスクトップ LAN として考案した低コストのデジタルインタフェースで、IEEE 1394 ワーキンググループによって発展してきました。IEEE 1394 ではデータ転送速度が 100, 200 または 400 Mbps となります。利用法の一つとして、デジタルテレビ機器を 200 Mbps で接続することが挙げられます。シリアルバスマネジメントにより、タイミング調整、バス上の個々の機器への適切な電力供給、同時間性チャンネル ID 割り当て、エラー発生通知等のシリアルバスの設定制御が行われます。IEEE 1394 のデータ転送には 2 つの方式があります。1 つは非同期、他方はアイソクロノス (isochronous) 転送です。非同期転送は従来のコンピュータによるメモリへのマップ、ロード、ストアを行うインタフェースです。データ転送要求は特定のアドレスに送られ確認が返されます。日進月歩のシリコン技術に調和して IEEE 1394 にはアイソクロノス転送チャンネルのインタフェースが用意されています。アイソクロノスデータチャンネルは一定のクロック信号に合わせてデータ転送を行うもので、着実な転送が保証されます。これは時間要素が大きく効いてくるマルチメディアデータにとって特に有用で、データの即時転送によって手間のかかるバッファ処理を省くことができます。

パリティビット

パリティモードは各バイトに対して 1 パリティビットを使用し、通常はメモリデータ更新時には各バイトのパリティビットは偶数の "1" が含まれる偶数パリティモードとなります。次回メモリに奇数の "1" が読み込まれるなら、パリティエラーが発生したことになり、単ビットエラー検出と呼ばれます。

PBSRAM (パイプラインドバースト SRAM)

Socket 7 CPU では、1 回のバーストデータ読み込みで 4QWord (Quad-word, $4 \times 16 = 64$ ビット) が必要です。PBSRAM は 1 つのアドレスデコード時間が必要だけで、残りの Qwords の CPU 転送は予め決められたシーケンスで行われます。通常これは 3-1-1-1 の合計 6 クロックで、非同期 SRAM より高速です。PBSRAM は Socket 7 CPU の L2 (level 2) キャッシュにたびたび使用されます。Slot 1 および Socket 370 CPU は PBSRAM を必要としません。

PC-100 DIMM

[SDRAM](#) DIMM のうち、100MHz CPU [FSB](#) バスクロックをサポートするものです。

PC-133 DIMM

[SDRAM](#) DIMM のうち、133MHz CPU [FSB](#) バスクロックをサポートするものです。

PC-1600、PC-2100 及び PC-2700 DDR DRAM

FSB クロックにより、DDR DRAM の動作クロックは 200MHz、266MHz 及び 333MHz の 3 タイプがあります。DDR DRAM のデータバスは 64-ビットなので、データ転送速度は異なる動作クロックによりそれぞれ $200 \times 64 / 8 = 1600 \text{MB/s}$ 、 $266 \times 64 / 8 = 2100 \text{MB/s}$ 及び $333 \times 64 / 8 = 2700 \text{MB/s}$ となります。以上より PC-1600 DDR DRAM は 100MHz FSB クロックを、PC-2100 DDR DRAM は 133MHz FSB クロック、そして PC-2700 DDR DRAM は 166MHz FSB クロックを使用していることがわかります。

PCI (ペリフェラルコンポーネントインタフェース)バス

コンピュータと拡張カード間の周辺機器内部での高速データ転送チャンネルです。

PDF フォーマット

電子式文書の形式の一種である PDF フォーマットはプラットフォームに依存しないもので、PDF ファイル読み込みには Windows, Unix, Linux, Mac ...用の各 PDF Reader を使用します。PDF ファイル表示には IE および Netscape のウェブブラウザも使用できますが、この場合 PDF プラグイン (Acrobat Reader を含む)をインストールしておく必要があります。

PnP(プラグアンドプレイ)

PnP 規格は BIOS およびオペレーションシステム (Windows 95 等)の双方に標準レジスタインタフェースを必要とします。これらレジスタは BIOS とオペレーションシステムによるシステムリソースの設定および競合の防止に使用されます。IRQ/DMA/メモリは PnP BIOS またはオペレーションシステムにより自動割り当てされます。現在、PCI カードのほとんどおよび大部分の ISA カードは PnP 対応済です。

POST (電源投入時の自己診断)

電源投入後の BIOS の自己診断手続きは、通常、システム起動時の最初または 2 番目の画面で実行されます。

RDRAM (Rambus DRAM)

ラムバスは大量バーストモードデータ転送を利用するメモリ技術です。理論的にはデータ転送速度はSDRAMよりも高速です。RDRAM チャンネル操作でカスケード処理されます。Intel 820 の場合、1 つの RDRAM チャンネルのみが認められ、各チャンネルは 16 ビットデータ長、チャンネルに接続可能な RDRAM デバイスは最大 32 であり、RIMM ソケット数は無関係です。

RIMM (Rambus インラインメモリモジュール)

[RDRAM](#)メモリ技術をサポートする 184 ピンのメモリモジュールです。RIMM メモリモジュールは最大 16 RDRAM デバイスを接続できます。

SDRAM (同期 DRAM)

SDRAM は DRAM 技術の一つで、DRAM が CPU ホストバスと同じクロックを使用するようにしたものです ([EDO](#) および FPM は非同期型でクロック信号は持ちません)。これは[PBSRAM](#)がバーストモード転送を行うのと類似しています。SDRAM は 64 ビット 168 ピン[DIMM](#)の形式で、3.3V で動作します。AOpen は 1996 年第 1 四半期よりデュアル SDRAM DIMM をオンボード(AP5V)でサポートする初のメーカーとなっています。

シャドウ E²PROM

E²PROM 動作をシミュレートするフラッシュ ROM のメモリ領域のことで、AOpen マザーボードはシャドウ E²PROM によりジャンパーおよびバッテリー不要の設計となっています。

SIMM (シングルインラインメモリモジュール)

SIMM のソケットは 72 ピンで片面だけです。PCB 上のゴールデンフィンガーは両側とも同じです。これがシングルインラインと言われる所以です。SIMM は FPM または[EDO DRAM](#)によって構成され、32 ビットデータをサポートします。SIMM は現在のマザーボード上では徐々に見られなくなっています。

SMBus (システムマネジメントバス)

SMBus は I2C バスとも呼ばれます。これはコンポーネント間のコミュニケーション(特に半導体 IC)用に設計された 2 線式のバスです。使用例としては、ジャンパーレスマザーボードのクロックジェネレーターのクロック設定があります。SMBus のデータ転送速度は 100Kbit/s しかなく、1 つのホストと CPU または複数のマスターと複数のスレーブ間でのデータ転送に利用されます。

SPD (既存シリアル検出)

SPD は小さな ROM または [EEPROM](#) デバイスで [DIMM](#) または [RIMM](#) 上に置かれます。SPD には DRAM タイミングやチップパラメータ等のメモリモジュール情報が保存されています。SPD はこの DIMM や RIMM 用に最適なタイミングを決定するのに [BIOS](#) によって使用されます。

Ultra DMA

Ultra DMA (または、より正確には Ultra DMA/33) は、ハードディスクからコンピュータのデータパス (またはバス) 経由でのコンピュータのランダムアクセスメモリ (RAM) へのデータ転送プロトコルです。Ultra DMA/33 プロトコルでは、バーストモードで従来の [ダイレクトアクセスメモリ \(DMA\)](#) の 2 倍である 33.3MB/s のデータ転送速度を実現します。Ultra DMA はハードディスクメーカーの Quantum corp 社及びチップセットとコンピュータバステクノロジーメーカーの Intel 社によって提案された工業仕様です。お手持ちのコンピュータで Ultra DMA をサポートしている場合、システム起動及びアプリケーション起動が速いことを意味します。またユーザーがグラフィックス中心やハードディスク上の多量データへのアクセスを要するアプリケーションを使用する際の支援をします。Ultra DMA はサイクリカルリダンダンシーチェック (CRC) をサポートし、一歩進んだデータ保護を行います。Ultra DMA には、PIO や DMA と同様、40 ピン IDE インタフェースケーブルを使用します。

16.6MB/s x2 = 33MB/s

16.6MB/s x4 = 66MB/s

16.6MB/s x6 = 100MB/s

USB (ユニバーサルシリアルバス)

USB は 4 ピンのシリアル周辺用バスで、キーボード、マウス、ジョイスティック、スキャナ、プリンタ、モデム等の低・中速周辺機器 (10Mbit/s 以下)がカスケード接続できます。USB により、従来の PC 後部パネルの込み入った配線は不要になります。

VCM(バーチャルチャンネルメモリ)

NEC 社のバーチャルチャンネルメモリ (VCM)はメモリシステムのマルチメディアサポート能力を大幅に向上させる、新しい DRAM コア構造です。VCM は、メモリコアおよび I/O ピン間に高速な静的レジスタセットを用意することで、メモリバス効率および DRAM テクノロジーの全体的性能を向上させます。VCM テクノロジーにより、データアクセスのレイテンシは減少し、電力消費も減少します。

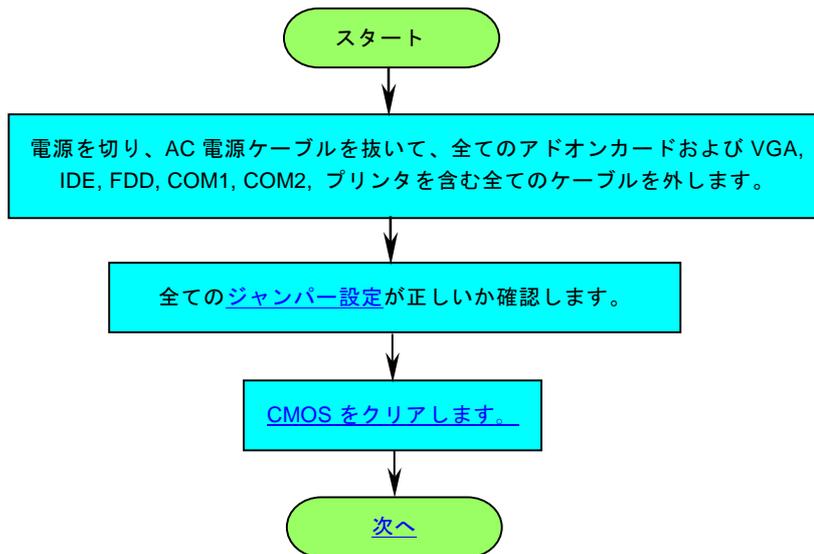
ZIP ファイル

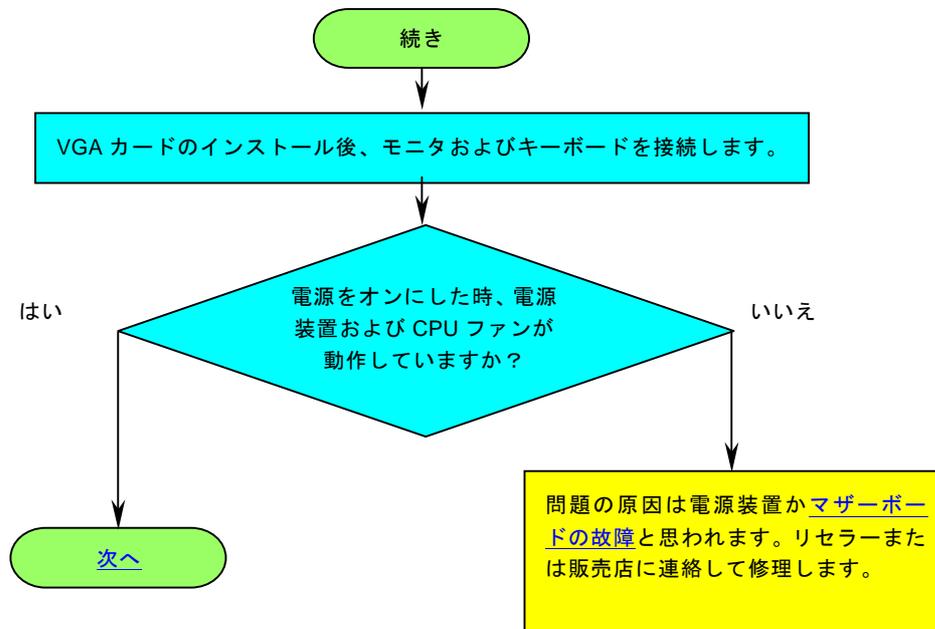
ファイルサイズを小さくするよう圧縮されたファイル。ファイルの解凍には、DOS モードや Windows 以外のオペレーションシステムではシェアウェアの PKUNZIP (<http://www.pkware.com/>) を、Windows 環境では WINZIP (<http://www.winzip.com/>)を使用します。

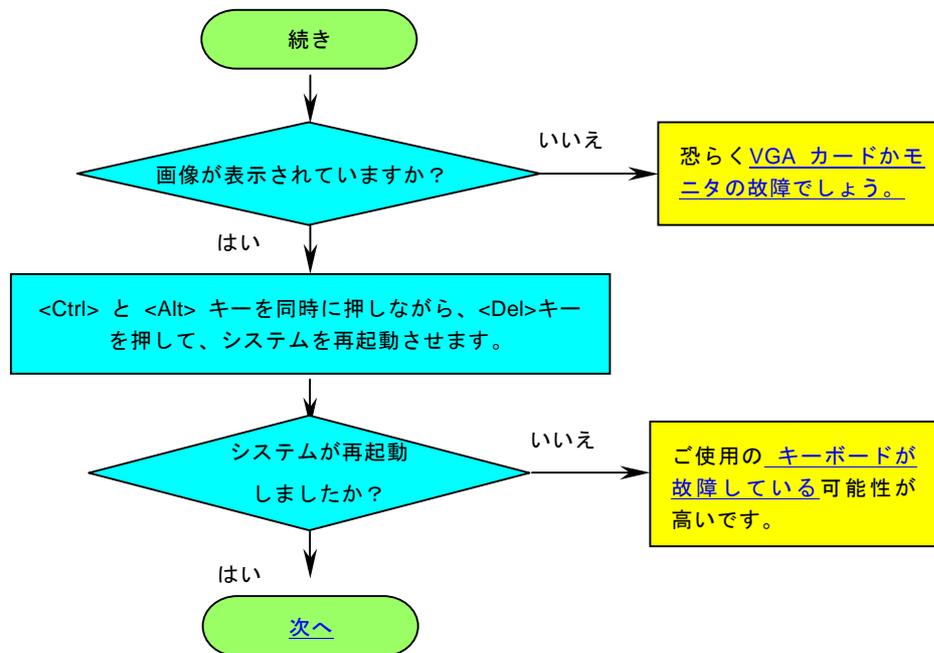


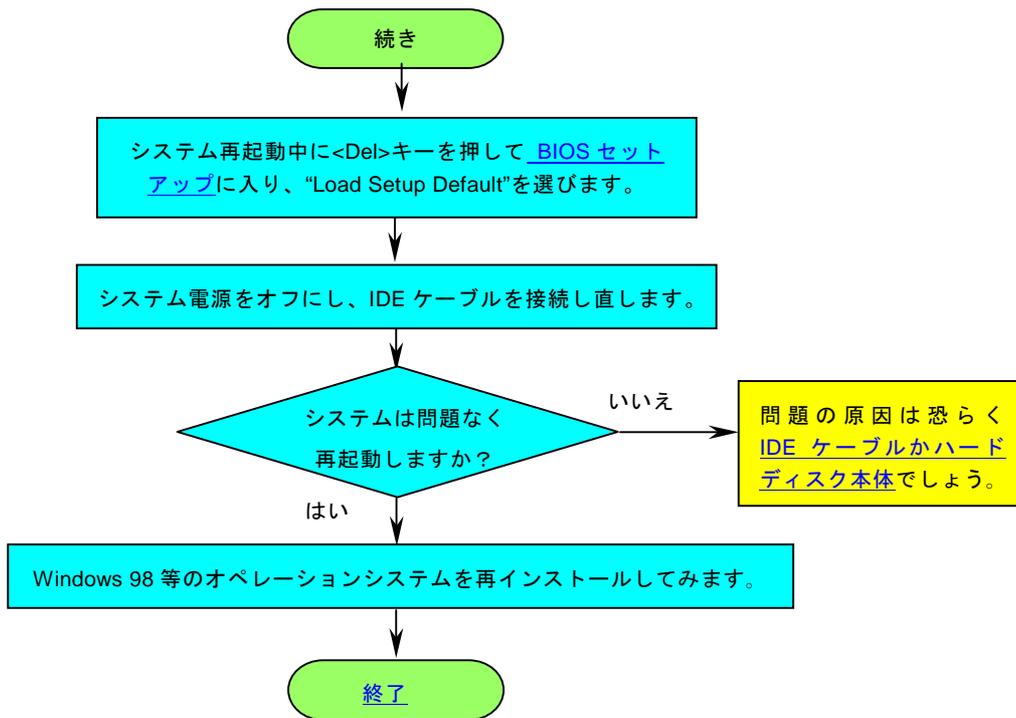
トラブルシューティング

システム起動時に何らかの問題が生じた場合は、以下の手順で問題を解決します。











テクニカルサポート

お客様各位へ

この度は、AOpen 製品をお買い上げいただきまして誠にありがとうございます。お客様への最善かつ迅速なサービスが弊社の最優先するところでございます。しかしながら、毎日世界中から E メール及び電話での問い合わせが無数であり、全ての方に遅れずにサービスをご提供いたしますことは極めて困難でございます。弊社にご連絡になる前に、まず下記の手順で必要な解決法をご確認になることをお勧めいたします。皆様のご協力で、より多くのお客様に最善のサービスをご提供していただけます。

皆様のご理解に深く感謝を申し上げます!

AOpen テクニカルサポートチーム一同

1

オンラインマニュアル: マニュアルを注意深くお読みになり、ジャンパー設定及びインストール手順が正しく行われることを確認してください。

<http://www.aopen.co.jp/tech/download/manual/default.htm>

2

テストレポート: 自作パソコンのための互換性テストレポートより、マザーボード、アドンカード及びデバイスを選択するようお勧めいたします。

<http://www.aopen.co.jp/tech/report/default.htm>

3

FAQ: 最新の FAQ (よく尋ねられた質問) よりトラブルの解決法が発見するかもしれません。

<http://www.aopen.co.jp/tech/faq/default.htm>

4

ソフトウェアのダウンロード: アップデートされた最新 BIOS、ユーティリティ及びドライバをチェックして取得してください。

<http://www.aopen.co.jp/tech/download/default.htm>

5

ニュースグループ: お抱えになっているトラブルに関して、弊社のエンジニアもしくはパワーユーザーよりその解決法をニュースグループに掲載されているかもしれません。

<http://www.aopen.co.jp/tech/newsgrp/default.htm>

6

販売店及びリセラーへのご連絡: 弊社は当社製品をリセラー及び SI を経由して販売しております。彼らはお客様のパソコン状況をよく知り、弊社より効率的にトラブルを解決することができます。彼らのサービス次第、お客様が彼らに別の製品を購入する意思が大きく左右されます。

7

弊社へのご連絡: 弊社までご連絡になる前に、システムに関する詳細情報及びエラー状況を確認して、必要に応じてご提供を求められる場合もあります。パーツナンバー、シリアルナンバー及び BIOS バージョンなどの情報提供も非常に役に立ちます。

パーツナンバー及びシリアルナンバー

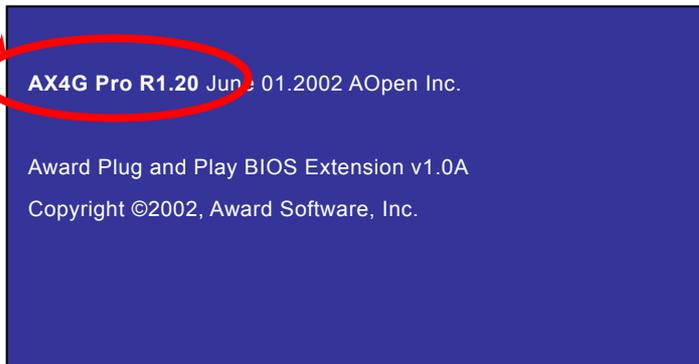
パーツナンバー及びシリアルナンバーがバーコードラベルに印刷されています。バーコードラベルは包装の外側、ISA/CPU スロットまたは PCB のコンポーネント側にあります。以下は一例です。



P/N: 91.88110.201 がパーツナンバーで、S/N: 91949378KN73 がシリアルナンバーです。

モデルネーム及びBIOSバージョン

モデルネーム及び BIOS バージョンがシステム起動時の画面 ([POST](#)画面)の左上に表示されます。以下は一例です。



AX4G Pro がマザーボードのモデルネームで、R1.20 が BIOS バージョンです。



製品の登録

ClubAOpen

Welcome to AOpen Inc.



AOpen 製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。製品登録により、弊社からの万全たるサービスが保証されますので、是非下記の製品登録手続きを済ますようお勧め致します。製品登録後のサービスは以下の通りです。

- オンラインのロットマシニングゲームに参加して、ボーナス点数を累積して AOpen の景品と引き換えることができます。
- クラブ AOpen プログラムのゴールドメンバーにアップグレードされます。
- 製品の安全性に関する注意の電子メールが届きます。製品に技術上注意すべき点があれば、便利な電子メールで迅速にユーザーに通知することはその目的です。
- 製品に関する最新情報が電子メールで届けられます。
- AOpen のウェブサイトにおける個人ページを有することができます。
- BIOS/ドライバソフトウェアの最新リリース情報が電子メールで届けられます。
- 特別な製品キャンペーンに参加する機会があります。
- 世界中の AOpen 専門家からの技術サポートを受ける優先権があります。
- ウェブ上のニュースグループでの情報交換が可能です。

お客様からの情報は暗号化されていますので、他人や他社により流用される心配はございません。なお、AOpen はお客様からのいかなる情報も公開はいたしません。弊社のプライバシー方針に関する詳細は、[オンラインでのプライバシーの指針](#)をご覧ください。

注意: 製品が相異なる販売店やリテラーから購入された場合、或いは購入の日付が同一でない場合において、各製品別に製品登録してください。

AOpen



弊社へのご連絡



太平洋地域

AOpen Inc.

Tel: 886-2-3789-5888

Fax: 886-2-3789-5399

ヨーロッパ

AOpen Computer b.v.

Tel: 31-73-645-9516

Fax: 31-73-645-9604

アメリカ

AOpen America Inc.

Tel: 1-408-922-2100

Fax: 1-408-922-2935

中国

艾爾鵬國際貿易(上海)有限公司

Tel: 86-21-6225-8622

Fax: 86-21-6225-7926

ドイツ

AOpen Computer GmbH.

Tel: 49-2102-157700

Fax: 49-2102-157799

日本

AOpen Japan Inc.

Tel: 048-290-1800

Fax: 048-290-1820

ウェブサイト : <http://www.aopen.com>

Eメール : 下記のご連絡フォームをご利用になりメールでご連絡ください。

英語 <http://www.aopen.com/tech/contact/techusa.htm>

日本語 <http://www.aopen.co.jp/tech/contact/techjp.htm>

中国語 <http://www.aopen.com.tw/tech/contact/techtw.htm>

ドイツ語 <http://www.aopencom.de/tech/contact/techde.htm>

フランス語 <http://france.aopen.com/tech/contact/techfr.htm>

簡体字中国語 <http://www.aopen.com.cn/tech/contact/techcn.htm>